

首 皇族武官 第五條 武官タル皇族ハ官等相當ノ禮式ニ從フ
 上級職ト 第六條 將校ニシテ上級ノ職務ヲ執リ又ハ之ヲ代理スル者ハ其ノ本官相當ノ
 禮式ニ從フ但シ上級ノ職務ヲ執リタル場合ニ於テハ其ノ部下ニ限リ職務相當
 ノ禮式ヲ行フ
 准士官、 第七條 准士官及見習士官（見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官
 見習士官、 第八條 准士官ノ禮式ニ從フ
 計候補 第九條 計候補生及主計候補生（見習士官、見習主計ヲ除ク）ハ其ノ階級ニ
 下士勤務 應シ下士又ハ兵卒ノ禮式ニ其ノ他ノ陸軍諸生徒ハ兵卒ノ禮式ニ從フ
 重砲兵 第十條 重砲兵隊中繫駕スルモノハ野戰砲兵隊ノ禮式ニ徒歩スルモノハ步兵
 皇室、近 第十條 皇室ノ祭儀及禮典ニ際シ特ニ行フヘキ禮式及近衛守衛隊ノ禮式ハ別
 衛守衛 定ムル所ニ依ル
 海軍關係 第十一條 海軍軍人所屬ノ艦艇ニ乗組ミ又ハ公然之ヲ訪問スル場合ニ於ケル
 特種ノ禮式ハ海軍所定ノ禮式ニ依ル

第二編 敬禮

第一章 通則

軍人相互 第十二條 軍人ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外上官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ上官

ノ敬禮 一四、一八ノ三
 二〇ノ四、六
 君ケ代 又ハ刀ノ禮ニ代ウルコトヲ得
 皇族上官 第十三條 軍人廉アル場合ニ於テ「君ケ代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ其ノ間姿勢ヲ
 正スヘシ
 官等ノ議 第十四條 軍人職務上皇族又ハ上官ニ隨從スルトキハ通常敬禮ヲ行フコトナ
 シ
 別難 第十五條 官等ノ議別ニ困難ナル場合ニ在リテハ先後ヲ論セス互ニ敬禮
 著服 第十六條 軍人單獨ノ敬禮ハ面議アル上官ニ對シテハ其ノ著服ノ如何ニ關セ
 ナ行フヘシ
 海軍、和 第十七條 海軍軍人、軍隊及和親國ノ陸海軍將校ニハ陸軍軍人、軍隊ニ對ス
 親ニ 第十八條 二人以上ノ上官ニ對シテハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外軍隊
 二人以上 二在リテハ最高級ノ人ニ對シテ之ヲ行ヒ軍人ニ在リテハ先ツ最高級ノ人ニ對
 ノ上官 シテ之ヲ行ヒ次ニ他ノ上官一同ニ對シテ之ヲ行フヘシ
 軍旗 第十九條 軍旗ハ天皇ニ對スルトキ及拜神ノ場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フコト

敬禮ヲ行ハサル軍 旗手、軍旗衛兵及軍旗中隊ハ軍旗ノ敬禮ヲ行フ場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行ハス
 第二十二條 天皇ニ對スル儀式及祭典ノ爲整理シアル軍隊ハ天皇ニ對スル場合
 ナシ
 敬禮ヲ行フコトナシ
 一 除クノ外敬禮ヲ行フコトナシ
 儀仗服務中ノ儀仗兵並會葬ノ儀仗兵ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行
 フコトナシ但シ儀仗衛兵ノ歩哨ハ此ノ限ニ在ラス
 軍人、軍隊及衛兵ハ前三項ノ軍隊ニ對シテ敬禮ヲ行ハサルモノトス
 第二十一條 軍人及軍隊行進間ノ敬禮ハ速歩(乘馬ノトキハ常歩)ニ於テ行ジ
 モノトス但シ軍人ニシテ武器ヲ携持セサルトキハ歩調ヲ取ルコトナク敬禮ス
 ルモノトス
 前項ノ者至急ノ用務ヲ帶フルトキハ其ノ旨ヲ告ケ駐歩(乘馬ノトキハ駐歩若
 ハ速歩)ノ儘敬禮ヲ行フモ妨ナシ
 第二十二條 軍隊及衛兵停止間ニ於テ敬禮ヲ爲スニハ目迎目送ヲ行フヘシ目
 迎目送ハ捧銃、捧刀等ヲ爲ス場合ニハ其ノ操作ヲ終リタル後直ニ頭ヲ右(左)
 ニ向ケ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目シ立銃、肩刀等ノ動令ニテ頭ヲ
 正面ニ復シ立銃、肩刀等ノ儘若ハ單ニ姿勢ヲ正シテ敬禮ヲ行フ場合ニハ「頭
 右(左)ノ號令ニ依リ目迎目送ヲ爲シ直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復スルモノ
 トス

軍隊敬禮ノ單位 位置ノ關係ニ依リ目迎目送ヲ爲ス能ハサルトキハ頭ヲ敬禮ヲ受クヘキモノニ
 向ケ注目ヲ爲スヘシ
 第二十三條 大隊以上(騎兵ニ在リテハ聯隊以上)ノ軍隊敬禮ハ停止間ニ在リ
 テハ大隊(騎兵ニ在リテハ聯隊)毎ニ行進間ニ在リテハ中隊毎ニ之ヲ行フヲ
 例トス
 第二十四條 軍隊及衛兵ノ敬禮ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外夜間之ヲ行フ
 コトナシ
 夜間、軍 隊、衛兵
 天皇ニ拜 第二十五條 天皇ニ拜謁スルトキ室内ニ於テハ最敬禮ヲ行フヘシ
 最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ取リ先ツ天皇ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ前約四十五度ニ
 傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チ帽ハ右手ニテ其ノ庇ヲ摘ミ之ヲ右股ニ接シ
 テ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシム刀ヲ佩フルトキハ柄ヲ後ニシ左手ニテ鑲部
 ナ握ルモノトス
 第二十六條 前條ノ最敬禮ハ玉座ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ之ヲ行フモノ
 トス但シ此ノ場合ニ於テハ先ツ御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入りテ直
 ニ敬禮ヲ行ヒ更ニ進ミテ最敬禮ヲ爲シ最敬禮終リタルトキハ退歩シ御室ノ出
 口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スヘシ
 前項ノ敬禮ハ最敬禮ヲ除クノ外總テ體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾ケ頭ヲ正シク
 上體ノ方向ニ保チテ行フモノトス
 拜謁ノ禮 式
 最敬禮ノ 方法
 第二章 軍人ノ敬禮
 第一節 最敬禮

賢所參拜 第二十七條 賢所參拜其ノ他拜神ノトキハ拜禮ヲ行フヘシ
 拜禮ノ方法ハ神靈ニ對シ最敬禮ト同一ノ方法ヲ以テ行フモノトス

室內ノ意 第二十八條 室內トハ居室、寢室、事務室及應接所等ヲ謂ヒ衛兵所、廊下、炊事場及厩等ハ室外トス但シ行幸、行啓アリタルトキニ限り廊下モ亦室內ト看做ス

室內ノ敬禮法 第二十九條 室內ノ敬禮ハ體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾ケ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目スルノ外最敬禮ニ同シ

室外ニ入ラムトスルトキハ室外ニ於テ脱帽スヘシ

下士兵卒銃又ハ槍ヲ携フルトキハ前二項ニ依ラス室外ノ敬禮ヲ行フモノトス

將校ニシテ下士兵卒ノ室內ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ナシ此ノ場合ニハ室外ノ敬禮ヲ行フモノトス

第三十條 參內及參殿ノ節ハ昇殿ノ際ヨリ脱帽スヘシ

賢所參拜其ノ他祭典ニ參列スルトキハ賢所正門又ハ祭場ニ入ルトキヨリ脱帽スヘシ

第三十一條 上官ノ室內ニ入ルトキハ上官ニ面シ入口ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ其ノ室ヲ去ルトキ亦同シ

第三十二條 上官ヨリ書類其ノ他ノモノヲ受ケ又ハ上官ニ之ヲ呈セムトスルトキハ敬禮ノ後適宜前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈シタル

上官來室ノトキ

後舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ但シ銃又ハ槍ヲ携フルトキハ左手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈ス若シ捧銃、捧槍ヲ爲スコト困難ナルトキハ立銃、立槍ノ儘敬禮スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ返簡若ハ受領證ヲ受ケヘキトキハ適宜ノ位置ニ退キ之ヲ待ツヘシ

上官ヨリ書類ヲ受ケ其ノ場ニ於テ披見ヲ要スルトキハ左手ヲ副ヘテ披見スヘシ但シ銃又ハ槍ヲ携フルトキハ之ヲ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ「騎銃ニ在リテハ銃身ヲ右ニシ負革ヲ右臂ニ懸ク」右手ヲ副ヘテ披見スヘシ

上官ヨリ官記、位記、勳記、功記及辭令書、賞狀等ヲ受クルトキハ其ノ場ニ於テ披見スルヲ例トス

命令、訓示等ヲ受ケ又ハ報告ヲ爲サムトスルトキ亦前諸項ニ準ス

第三十三條 上官室內ニ來ルトキハ立チテ敬禮ヲ行ヒタル後各其ノ業務ニ服シ上官其ノ室ヲ去ルトキハ再ヒ立チテ敬禮ヲ行フヘシ但シ上官ニ應答スル者ハ其ノ間起立スルモノトス

下士兵卒ノ室內ニ將校來ルトキハ前項ニ拘ラス最初之ヲ認メタル者「敬禮」ト呼ビ其ノ室ニ在ル者皆其ノ場ニ立チ敬禮ヲ行ヒ將校ノ許可アリタル後各其ノ業務ニ服スヘシ但シ檢査、點呼等ノ場合ニ在リテハ最高級ノ者ノ號令ヲ以テ一般ニ不動ノ姿勢ヲ取ラシメ敬禮ヲ行フヘシ

講堂等ニ於テ授業若ハ作業中ニ在リテハ教官若ハ監視者ノミ敬禮ヲ行ヒ前二項ノ敬禮ヲ省略セシムルモ妨ナシ

勅使
宴會

第三十四條 勅使ニ對シテハ上官ト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ
第三十五條 廉アル宴會ニ於テ上官ト同席スルトキハ上官ヨリ先ニ椅子ニ倚
リ又ハ食卓ニ就キ若ハ之ヲ離レ又ハ喫烟スルコトナキヲ例トス
上官ヨリ廉アル宴會等ニ招カレ其ノ參著及退散ノトキハ帶刀(劍)シテ挨拶ス
ルヲ例トス

第三節 室外ノ敬禮

室外敬禮

第三十六條 室外ニ於テハ規定アル場合ヲ除クノ外舉手注目ノ敬禮ヲ行
フヘシ但シ右手ヲ舉クルコト能ハサルトキハ其ノ儘受禮者ニ注目シ體ノ上部
ヲ少シク前ニ傾クヘシ

舉手注目

舉手注目ノ禮ハ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ其ノ指ヲ接シテ伸ハシ食指ト中指トヲ
帽ノ庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高サニ齊クシ
頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目ス

將校拔刀
ノ禮

第三十七條 將校拔刀ノ場合ニ於テ天皇又ハ軍旗ニ對シ敬禮ヲ行フトキ其ノ
他特ニ規定アル場合ニハ刀ノ禮ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ在リテハ肩刀ニテ姿勢
ヲ正シ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ但シ將校相
當官ハ刀ノ禮ヲ行フコトナシ

下士官兵
銃槍刀ノ
禮

下士官兵銃槍若ハ槍ヲ携ヘ又ハ拔刀シタル場合ニ於テ敬禮ヲ行フトキハ天皇又
ハ皇族ニ對シテハ著劍又ハ起劍捧銃(輜重兵ニ在リテハ著劍セス)捧刀又ハ捧
槍(乘馬ノトキハ立槍以下同シ)ヲ爲シ目迎目送ヲ行ヒ上官ニ對シテハ行進間
ニ在リテハ正規ノ歩法ヲ取り頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ停止間ニ在リテハ將

行進間軍
旗上
對スル
敬禮

第四十條 行進間ニ於テ軍旗(上覆ヲ附セサルトキ以下同シ)若ハ上官ニ行進
シテハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ將校ニ在リテハ其ノ儘敬禮ヲ行ヒ下士官卒ニ
在リテハ軍旗若ハ所屬團隊長(獨立隊内ニ於ケル大隊長、中隊長並教導(生徒)
隊ヲ有スル學校長、佐官及教導(生徒)隊長、同隊中隊長ヲ含ム)ニ對
シテハ之ニ面シテ停止シ其ノ他ノ上官ニ對シテハ行進ノ儘頭ヲ受禮者ノ方ニ
向ケテ敬禮ヲ行フヘシ

途上行幸
ニ過
フ

第三十九條 途上ニ於テ行幸ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ於テ
車駕ノ通路ニ面シテ停止シ(乘馬者ハ其ノ儘乘車者ハ下車)車駕約八步前ニ
近ツクトキ敬禮ヲ行ヒ約八步過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

野外ノ奏
嘯

第三十八條 野外ニ於テ天皇ニ奏上スルトキハ玉座ヲ距ル約六步ノ所ニ至リ
敬禮シ適宜ノ距離ニ進ミテ奏上シ奏上終リタルトキハ玉座ヲ距ル約六步ノ所
迄退歩シテ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

下士官兵
嘯

校ニ對シテハ捧銃、捧刀又ハ捧槍ヲ爲シ目迎目送ヲ行ヒ下士官卒ニ對シテハ
姿勢ヲ正シ立銃、肩刀又ハ立槍ヲ爲シ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ
少シク前ニ傾クヘシ

下士官兵
嘯

下士官卒嘯吹ヲ手ニスルトキハ其ノ持方ヲ變スルコトナク銃、刀又ハ槍ニ關
スル動作ヲ除ク外前項ニ準シ敬禮スルモノトス

前項ノ團隊長ト他ノ上官ト同行スル場合ニハ下士官卒ハ停止シ第十八條ニ準
シテ敬禮ヲ行フヘシ

停止間ノ上官
 第四十一條 停止間ニ於テ上官其ノ傍ヲ通過スルトキハ之ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ
 上官ノ許ニ至ルトキハ適宜ノ距離ニ於テ之ニ面シテ停止シ敬禮ヲ行フヘシ
 第四十二條 上官ノ後方ヨリ進ミテ之ヲ通り過キムトスルトキハ其ノ旨ヲ告ケテ通過スヘシ
 第四十三條 途上ニ於テ勅使ニ遇フトキハ行進ノ儘敬禮ヲ行フヘシ
 第四十四條 途上ニ於テ軍人ノ葬儀ニ遇フトキハ官職ノ如何ヲ問ハス其ノ概ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ
 第四十五條 上官ノ引率スル軍隊ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ隊長ニ敬禮ヲ行フヘシ
 第四十六條 軍隊ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ隊長ニ答禮スルモノトス
 第四十七條 室外ニ於テ上官ノ窓隔内ニ在ルヲ認メタルトキハ敬禮ヲ行フヘシ
 第四十八條 一、二等卒及之ト同級ノ者ハ步哨ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ
 第四十九條 汽車、電車、馬車、人力車及船等ニ乘リタルトキハ上官ニ行遇ヒ若ハ其ノ傍ヲ通過シ又ハ船、車内ニ於テハ成ルヘク上官ニ其ノ席ヲ讓ルヲ禮トス
 敬禮スルモ妨ナシ但シ船、車内ニ於テハ成ルヘク上官ニ其ノ席ヲ讓ルヲ禮トス
 船、車内ニ於テ敬禮ヲ行フニ危險ヲ感スルトキ又ハ自轉車ニ乘リタルトキハ單ニ注目ヲ以テ禮ニ代ウルコトヲ得

物品呈受ノ禮
 室內三
 第五十條 室外ニ於テ上官ヨリ書類其ノ他ノモノヲ受ケ又ハ呈セムトスルトキハ室外ノ敬禮ヲ行フ外其ノ動作ハ室內ニ於ケルモノニ同シ
 上官ヨリ命令、訓示等ヲ受ケ又ハ報告ヲ爲サムトスルトキハ亦前項ニ準ス
 前二項ノ場合ニ於テ乘馬者徒歩ノ上官ニ對スルトキハ野外勤務ニ於ケル傳令ノ場合ヲ除ク外ハ敬禮ヲ行ヒタル後下馬スヘシ但シ上官ノ許可アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第五十一條 上官ト同行スルトキハ上官ノ行進ヲ妨ケサル如ク其ノ左側〔二人以上ナルトキハ兩側ニ分レ〕又ハ後方ニ就キ上官ノ步調ニ合ハスヲ禮トス
 但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラス
 第五十二條 下士兵卒集團シ又ハ同行スルトキハ上官ニ行遇ヒ又ハ上官其ノ傍ヲ通過スルトキハ其ノ他敬禮ヲ行フヘキ場合ニ於テハ最初之ヲ認メタル者要スレハ「敬禮」ト呼ビ注意スヘシ
 第五十三條 演習中上官ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ敬禮ヲ行フコトナク單ニ其旨ヲ告知スヘシ
 第三章 軍隊ノ敬禮
 第一節 停止間ノ敬禮
 第五十四條 天皇ニ對シテハ車駕ノ通路ニ正面〔騎兵、野戰砲兵、輜重兵ニシテ途上縱隊ナルトキハ已ムヲ得サレハ其ノ儘以下同シ〕シテ隊列ヲ正シ武裝

天 皇 三九
 演習中
 集團者敬
 行 上官ト同

將官

〔軍裝若ハ略裝ニテ武器ヲ携帶スルモノ以下同シ〕シタルトキハ步兵、工兵ハ著劍捧銃ヲ行ヒ騎兵ハ起劍捧銃、捧刀、捧槍若ハ立槍シ野戰砲兵ハ姿勢ヲ正シ輻重兵ハ捧銃若ハ捧刀シ駄馬又ハ車輛ヲ牽ク部隊ハ姿勢ヲ正シ當該部隊ニ屬スル將校ハ刀ノ禮ヲ爲シ曹長ハ捧刀シ軍旗亦敬禮ヲ行ヒ喇叭「君力代」ヲ吹奏スヘシ

前項ノ敬禮ハ車駕隊列ヨリ約三十歩ノ所ニ來ルトキ之ヲ始メ隊列ヲ去ルコト約十五歩ノ所ニ至ルトキ之ヲ止ム

汽車、汽船等ニテ通御ノ際亦前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第五十五條 將官ニ對シテハ武裝セル軍隊ニ在リテハ之ニ正面シ隊列ヲ正シ敬禮ヲ行フ隊長將校ナルトキハ刀ノ禮ヲ爲シ下士兵卒ナルトキハ捧銃、捧刀、捧槍若ハ立槍ヲ爲シ目迎、目送ヲ行ヒ左ノ區分ニ從ヒ喇叭「海行カハ」ヲ吹奏スヘシ

一、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、陸軍大將及特命檢閱使タル將官

二、陸軍中將

三、陸軍少將

前項ノ敬禮ハ受禮者隊列ヨリ約八歩ノ所ニ來ルトキ之ヲ始メ隊列ヨリ約八歩過キ去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

受禮者突然隊ノ左翼ヨリ來ルトキノ如キハ中隊各箇ニ敬禮ヲ行フモ妨ナシ又喇叭ハ受禮者ノ職名ヲ知ルコト能ハサルトキハ官等ニ應スル回数ヲ吹奏シ若

勅使

他ノ軍隊

軍旗ヲ有スル軍隊

武裝セル軍隊

七

シ官等ヲモ識別シ得サルトキハ單ニ一回吹奏スルモノトス

佐尉官ニ對シテハ喇叭ヲ吹奏セサル外前諸項ニ同シ

第五十六條 勅使ニ對シテハ武裝セル軍隊ニ在リテハ之ニ正面シテ隊列ヲ正シ敬禮ヲ行ヒ隊長將校ナルトキハ刀ノ禮ヲ爲シ下士兵卒ナルトキハ捧銃、捧刀、捧槍若ハ立槍ヲ目迎目送ヲ行ヒ敬禮スルモノトス

第五十七條 他ノ軍隊ニ對シテハ隊列ヲ正シ隊長將校ナルトキハ刀ノ禮ヲ行ヒ下士兵卒ナルトキハ第三十七條ト同一ノ方法ヲ以テ互ニ敬禮シ喇叭「皇御

國」一回ヲ吹奏スルモノトス

軍隊相互ノ敬禮ハ其ノ隊長ノ階級下ナルモノヨリ先ツ之ヲ行ヒ同級ナルトキハ先後ヲ論セス之ヲ行フモノトス

第五十八條 軍旗ヲ有スル軍隊ニ對シテハ隊列ヲ正シテ敬禮シ隊長ハ軍旗ニ對シ第三十七條ノ敬禮ヲ行ヒ喇叭「足曳」一回ヲ奏吹シ軍旗ヲ有スル軍隊ハ之ニ對シ答禮シ喇叭「皇御國」一回ヲ吹奏スルモノトス

第五十九條 軍隊ニシテ武裝セサル場合ノ敬禮ハ銃、刀又ハ槍ニ關スル動作ヲ除ク外武裝シタル場合ノ敬禮ニ準ス但シ隊長ハ舉手注目ノ禮ヲ行ヒ喇叭ヲ吹奏スルコトナシ

武裝シタル軍隊ニシテ武裝セサル軍隊ニ對スルトキ亦前項ニ同シ但シ隊長ハ第五十七條ト同一ノ敬禮ヲ行フ

將校相當官及各部下士兵卒ノ引率スル軍隊ノ敬禮ハ武裝セサル軍隊ノ敬禮ニ

軍隊ノ軍人ニ對スル敬禮
 第六十條 軍隊ノ軍人ニ對スル敬禮ハ其ノ隊長ヨリ上級ノ者ニ非サレハ之ヲ行フコトナシ
 將校相當官、各部下士及其ノ引率スル軍隊ニ對シテハ軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ敬禮若ハ答禮スルモノトス
 第六十一條 將校ノ引率スル軍隊ハ下士兵卒ノ引率スル軍隊ニ對シテ軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ答禮スルモノトス
 第六十二條 儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ葬儀ニ遇フトキハ官職ノ如何ヲ問ハス隊長ハ柩ニ對シ敬禮スルモノトス
 第六十三條 軍隊拜神ノ禮ハ神前ニ整列シ天皇ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フ但シ喇叭ハ「國ノ鎮メ」一回ヲ吹奏スルモノトス
 第六十四條 軍隊行軍又ハ教練間隊列ヲ解キ一地ニ休憩シアルトキハ敬禮ヲ行ハサルヲ例トス其ノ他ノ場合ニ於テ隊列ヲ離レタル軍人ハ單獨ノ敬禮ヲ行フヘシ

休憩間
 天皇 第二節 行進間ノ敬禮
 第六十五條 天皇ニ對シテハ先驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ沿フテ停止シ第五十四條ニ準シ敬禮ヲ行フ薄隊列ヲ過キ去リタル後再ヒ行進ヲ始ムヘシ
 汽車、汽船等ニテ通御ノ際亦前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ
 第六十六條 軍旗、上官又ハ他ノ軍隊ニ對シテハ行進ヲ停止セシ「頭右(左)」ノ號令ニテ軍旗、受禮者又ハ隊長ニ注目シ隊長將校ナルトキハ刀ノ禮ヲ行フ

官、他ノ

軍隊 第六節 行進間ノ敬禮
 第六十七條 軍隊整列シタル衛兵ノ前ヲ通過スルトキハ他ノ軍隊ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ將校ノ引率スル軍隊ハ下士以下ノ司令タル衛兵ニ對シ軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ答禮スヘシ
 第六十八條 第五十八條乃至第六十二條ハ軍隊行進間ノ敬禮ニ準用ス
 第六十九條 途步行進間ハ徒歩兵ニ在リテハ「途歩」其ノ他ニ在リテハ「休メ」ノ號令アリタル場合ニ在リテハ天皇ニ對スル場合ヲ除クノ外軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ敬禮ヲ行フ但シ軍旗、軍隊及高貴ノ人ニ遇フトキハ成ルヘク唱歌、喫煙等ヲ止メ靜肅ニ行進スヘシ
 軍隊市街ニ於テ途步行進中ナルトキハ先ツ速步行進(徒歩兵ニ在リテハ「速歩」其ノ他ニ在リテハ「氣ヲ付ケ」ノ號令アリタル場合)ニ復シテ敬禮ヲ行フヘシ

衛兵ニ對スル敬禮
 途步行進
 間
 天皇

第三節 教練間ノ敬禮
 第七十條 天皇練兵場ニ親臨アリタルトキハ其ノ場ニ在ル最高級ノ將校ハ喇叭手ヲシテ「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメ車駕ヲ奉迎シ各隊教練ヲ止メ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行フ各軍隊毎ニ其ノ最高級ノ將校ハ駟歩ニテ車駕ノ許ニ至リ敬禮

ヲ行ヒ教練ノ次第ヲ奏上シ勅命アルカ又ハ車駕練兵場ヲ去ルニ非サレハ教練ヲ始ムヘカラス

車駕練兵場ヲ去ルニ際シテハ軍隊ハ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行ヒ其ノ場ニ在ル最高級ノ將校ハ車駕ヲ奉送スヘシ

第七十一條 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、陸軍大將及特命檢閱使タル將官練兵場ニ臨場シタルトキハ最初ニ之ヲ認メタル隊長先ツ喇叭手ヲシテ「氣ヲ付ケ」テ吹奏セシメ各隊教練ヲ止メ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行ヒ各團隊毎ニ其ノ最高級ノ將校ハ駈歩ニテ臨場者ノ許ニ至リ敬禮ヲ行ヒ「拔刀シアルトキハ刀ノ禮ヲ行フ」教練ノ次第ヲ陳ヘ別命ナキトキハ再ヒ教練ヲ始ムヘシ

受禮者練兵場ヲ去ルニ際シテハ軍隊ハ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ

臺灣、朝鮮及滿洲ニ在ル軍隊ノ軍司令官ニ對スル場合亦前二項ニ同シ

團隊長（教導（生徒）隊ヲ有スル學校長タル將官、佐官ヲ含ム）練兵場ニ來ルトキハ其ノ部下軍隊ニ限リ前諸項ニ準シ敬禮ヲ行ヒ教練ノ次第ヲ報告スヘシ但シ「氣ヲ付ケ」テ喇叭ヲ吹奏スルコトナシ

第七十二條 軍隊練兵場ニ於テ教練間ハ前二號ノ場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フコトナシ

第七十三條 軍隊ハ演習場、射擊場及作業場等ニ於テモ成ルヘク前諸條ニ準シテ敬禮ヲ行フヘシ

第七十四條 野外ニ於テ演習實施中ハ通常敬禮ヲ行フコトナシ

第四章 衛兵ノ敬禮

整列敬禮 第七十五條 衛兵ハ天皇、皇族及左ニ列記スルモノニ對シテハ門外又ハ衛舎前ニ整列シ銃又ハ槍ヲ執リ「野戰砲兵ハ不動ノ姿勢ヲ取ル以下同シ」敬禮ヲ行フヘシ但シ天皇ヲ除クノ外ハ其ノ所在ノ門ヲ出入スルトキニ限ル

一、軍旗

二、將校ノ引率スル武裝シタル軍隊

三、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、陸軍大將及特命檢閱使タル將官

四、衛戍司令官（東京衛戍總督ヲ含ム以下同シ）及團隊長（教導（生徒）隊ヲ有スル學校長タル將官、佐官ヲ含ム）

臺灣、朝鮮及滿洲ニ在ル軍隊ノ衛兵ハ軍司令官ニ對シテハ前項第三號ニ掲グル者ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ

衛戍司令官ニ對シテハ其ノ衛戍地ノ衛戍衛兵團隊長ニ對シテハ其ノ部下ノ風紀衛兵ノミ敬禮スルモノトス

第七十六條 前條衛兵ノ敬禮ハ軍隊停止間ノ敬禮ニ同シ

第七十七條 衛兵司令官ヨリ上官タル將校其ノ所在ノ門ヲ出入スルトキハ衛兵中最初ニ之ヲ認メタル者「敬禮」ト呼ビ現在スル者其ノ場ニ立チテ姿勢ヲ正シ衛兵司令官ハ其ノ將校ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第五章 歩哨ノ敬禮

第七十八條 歩哨ハ天皇、皇族及左ニ列記スルモノニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

敬禮スヘキモノノ敬禮方法

第七十九條 敬禮スヘキモノノ敬禮方法

衛戍	二、軍隊	三、將校	四、下士、上等兵及之同級ノ者	第七十九條 天皇、皇族、軍旗及將校ニ對シテハ著劍又ハ起劍捧銃（著劍又ハ起劍シアラサルトキハ將校ニ對シテハ其ノ儀之ヲ行ヒ又輻重兵ニ在リテハ著劍セズ）捧銃ノ禮ヲ行ヒ目迎目送ヲ爲シ下士、上等兵及之同級ノ者ニ對シテハ立銃、立槍ノ儀ヲ行フハ儀ヲ正シ頭ヲ敬禮ヲ受クヘキモノノ方ニ向ケテ之ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ軍隊ニ對シテハ姿勢ヲ正シ其ノ隊長ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ	第八十條 歩哨ハ夜間ニ在リテモ敬禮ヲ行フモノタルコトヲ識別シタルトキハ敬禮スヘシ	第八十一條 歩哨敬禮ヲ行フニ通常其ノ定位ニ立チ（哨舍内ニ在ルトキハ之レヨリ出ツヘシ）敬禮ヲ受クヘキモノ約八歩前ニ來ルトキ之ヲ行ヒ約八歩過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ但シ動哨ニ在リテハ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行フモ妨ナシ	復哨ハ同時ニ敬禮ヲ行フヘシ	第八十二條 歩哨ニシテ兵卒ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキハ立銃又ハ立槍ノ儀ヲ行フヘシ	第八十三條 野戰砲兵ノ歩哨ハ舉手注目ノ敬禮ヲ行フヘシ	第八十四條 野戰砲兵ノ職務執行ノ爲ムチ得サル場合ニ在リテハ敬禮ヲ行ハサ
----	------	------	----------------	--	--	---	---------------	--	----------------------------	-------------------------------------

類	儀式ノ種	第八十五條	第一、儀仗	二、塔列	三、伺候式	四、觀兵式	五、禮砲式	六、軍旗迎送式	前項第一號乃至第五號ノ儀式ハ天皇、皇族及將官ノ外特ニ命令アリタル場合ニ於テ高貴ノ人ニ對シテ行フ但シ受禮者ハ儀式ヲ辭スルコトヲ得	第八十六條 儀仗（軍旗迎送式ヲ除ク）ニ關シテハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外衛戍司令官之ヲ執行チ命スルモノトス	第八十七條 召集中ノ者又ハ現ニ勤務ニ服スル者ノ外在郷軍人ニハ儀式ニ關スル規定ヲ適用セス	第八十八條 本令規定以外ノ陸軍ノ儀式ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル	第八十九條 第二章 儀仗 天皇、皇族及將官衛戍地著發ノトキハ儀仗兵ヲ供フ
---	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	---------	---	---	---	----------------------------------	---

第三篇 儀式

第一章 通則

本令ニ於テ儀式ト稱スルモノ左ノ如シ

區分
第九十條 儀仗兵ヲ分チテ二トス
一、儀仗隊
二、儀仗衛兵
儀仗隊ハ途上ノ護衛ニ任シ儀仗衛兵ハ行在所又ハ旅館ノ護衛ニ任スルモノトス

第九十一條 儀仗隊ヲ供フルハ左ニ列記スル場合ノ外特ニ命令アルトキニ限ル
一、衛戍地ニ行幸、行啓又ハ通御アリテ其ノ地著御及發御ノトキ
二、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、總督、軍司令官、陸軍大將及特命檢閱使タル將官公務ヲ行フヘキ衛戍地ニ著發ノトキ
三、軍隊ノ長タル將官初テ部下軍隊ノ衛戍地ニ著シ又ハ轉職等ノ爲其ノ地ヲ發スルトキ

第九十二條 儀仗衛兵ハ前條ノ場合ニ於テ駐營又ハ滞在間之ヲ供フルモノトス

第九十三條 儀仗隊及儀仗衛兵ノ編成並歩哨ノ種類ハ附表ニ依ル

第九十四條 儀仗隊ハ波止場、停車場又ハ市街ノ入口附近ニ之ヲ出シ行在所又ハ旅館迄途上前後ニ列シ護衛スルモノトス但シ儀仗隊徒歩隊ニシテ儀仗ヲ受クル者乘馬又ハ乘車ナルトキハ隨從スルコトナシ

第九十五條 儀仗隊ノ敬禮ハ軍隊ノ敬禮ニ依リ儀仗衛兵ノ敬禮ハ衛兵ノ敬禮ニ依ル但シ天皇及其ノ儀仗ヲ受クル者ニ對シテハ夜間ト雖敬禮ヲ行フモノトス

第九十六條 儀仗兵ハ晝夜ノ別ナク何レノ時ト雖之ヲ供フルモノトス

敬禮スル場合
第九十七條 天皇ニ對スル儀仗兵以外ノ儀仗兵ハ軍旗並儀仗ヲ受クル人ヨリ上級者ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

儀仗兵數
第九十八條 天皇、皇族及將官衛戍地著發ノトキ軍隊ハ堵列シ迎送ヲ爲スモノトス

第九十九條 堵列ヲ行フ場合ハ儀仗隊ニ供フル場合ニ同シ但シ夜間ハ之ヲ行ハス

第一百條 堵列スヘキ軍隊ノ兵數ハ附表ニ依ル

第一百一條 堵列ノ軍隊ハ波止場、停車場又ハ市街ノ入口ト行在所又ハ旅館トノ間ニ於テ道路ノ一側又ハ兩側ニ整列ス但シ隊列ノ順序ハ受禮者ノ來ルヘキ方ヲ上下トス

天皇汽車、汽船等ニテ通御ノトキ亦前項ニ準ス

第一百二條 堵列ノ軍隊ハ受禮者其ノ場ニ來ルトキ軍隊ノ敬禮ヲ行フヘシ

第一百三條 天皇著御ノトキハ師團長、衛戍司令官、憲兵司令官、憲兵隊長及儀仗、堵列並禮砲式ニ加ハラサル上長官以上ニシテ乘馬ヲ有スル者ハ波止場、停車場又ハ市街ノ入口ニ奉迎シ行在所迄陪從ス其ノ發御ノトキ亦之ニ準ス

天皇著御又ハ發御ノトキ該地所在ノ將校中儀仗、堵列又ハ禮砲式ニ加ハル者及前項ニ依リ陪從スル者ヲ除クノ外ハ適宜ノ地ニ整列シテ奉迎又ハ奉送ヲ爲スヘシ

第四章 伺候式

指揮官	行分	刺名簿、名	拜調	方法	範圍	行候	何候
第百九條	第百十條	第百十一條	第百八條	第百七條	第百六條	第百五條	第百四條
觀兵式ハ天皇節祝日及陸軍始其ノ他特ニ規定アルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限リ之ヲ行フモノトス	觀兵式ヲ分チテ閱兵式及分列式トス	觀兵式ハ天皇、皇族及左ニ列記スル者ニ對シテ行フモノトス 一、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、軍司令官、陸軍大將及特命檢閱使タル將官	候式ニハ拜調又ハ面調ヲ爲スヲ例トス 拜調又ハ面調ヲ爲ストキハ敬禮ヲ行フノ後直ニ退去スルモノトス 時宜ニ依リ拜調ヲ賜ラス又ハ受禮者面調ヲ辭スルトキハ候者ハ官爵氏名ヲ帳簿ニ記スルカ又ハ官爵氏名ヲ附シタル名刺ヲ呈スヘシ	候式ハ受禮者發着ノ前後二十四時間以内ニ於テ時ヲ定メ之ヲ行フモノトス	候式ハキ將校ノ範圍ハ附表ニ依ル	候式ヲ行フ場合ハ儀仗隊ヲ供フル場合ニ同シ	天皇、皇族及將官衛戍地著發ノトキハ該地所在ノ將校ハ行在所又ハ旅館ニ候スルモノトス

式陸軍始	將校ノ出	附錄參照	禮砲式	行フ場合
式陸軍始	第百十四條	第百十五條	第百十六條	第百十七條
天皇節、陸軍始ノ式	天皇ニ對シ觀兵式ヲ行フトキ並天長節祝日及陸軍始ニ於ケル觀兵式ハ各衛戍地ニ於テ之ヲ行ヒ但シ將官ノ在ラサル衛戍地ノ軍隊ニ於テハ前條第二項ニ準シ分列式ノミヲ行フヘシ	天皇ニ對シ觀兵式ヲ行フトキ並天長節祝日及陸軍始ニ於ケル觀兵式ニハ當該地所在ノ將校悉ク出場スヘシ	禮砲式ハ敬禮又ハ表祝ノ爲之ヲ行フモノトス	禮砲式ヲ行フハ紀元節、天長節祝日及左ニ列記スル場合ノ外特ニ命令アルトキニ限ル

前項各號ノ場合ニ於ケル禮砲式ハ野戰砲兵其ノ地ニ駐屯スルトキニ限リ之ヲ
 一、衛戍地ニ行幸、行啓又ハ通御アリテ其ノ地著御及發御ノトキ
 二、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、軍司令官、陸軍大將及特命檢
 閱使タル將官公務ヲ行フヘキ衛戍地ニ著發ノトキ
 三、師團長初テ部下軍隊ノ衛戍地ニ著シ又ハ轉職等ノ爲其ノ地ヲ發スルト
 キ

考	備	軍司令官、陸軍大將及特命檢閲使タル將官	隊若ハ歩兵一中隊トス	トス 正門ノ歩哨ハ單哨トス	兵約三分ノ一	上長官以上	十九發
二	一	軍隊ノ長タル中(少)將	中(少)尉又ハ准尉ノ指揮スル騎兵半小隊若ハ歩兵一小隊トス	當該地屯在ノ部下軍隊悉皆	當該地所在ノ所屬將校悉皆	師團長ニ限リ十三發	
紀元節及天長節祝日ニ於ケル禮砲ノ數ハ百零一發トス	儀仗兵ニ要スル人員ヲ充足スルコト能ハサルトキ又ハ歩騎兵以外ノ兵種ヲ用ウルトキハ本表ニ準シ其ノ編成ヲ定ムヘシ						

陸達第三十六號
 陸軍禮式附錄別冊ノ通改正ス
 明治四十三年九月二十二日
 陸軍大臣 子爵 寺内 正毅

陸軍禮式附錄

陸軍禮式附錄 目次

第一章 觀兵式	一
第一節 通則	一
第二節 閱兵式	二
第三節 分列式	四
第二章 軍旗迎送式	七

陸軍禮式附錄 目次終

陸軍禮式附錄

禮式二〇九
二五
國隊長ト

第一章 觀兵式

第一節 通則

第一條 本章ニ於テ國隊長ト稱スルハ師團長、旅團長、聯隊長及獨立隊長ヲ謂フ

第二條 交通兵隊ニ對シテハ工兵隊、重砲兵隊中繫駕スルモノニ對シテハ野砲兵隊、繫駕セサルモノニ對シテハ步兵隊ノ爲ニ定メタル規定ヲ準用ス

第三條 閱兵式及分列式ノ整頓ハ常ニ右方ヲ基準トス

第四條 團隊附將校、特務曹長、見習士官、曹長及騎兵〔槍ヲ携フル者ヲ除ク〕輜重兵ハ肩刀シ步兵、工兵ハ著劍ス但シ喇叭手ハ著劍スルコトナシ

第五條 觀閱者徒歩ナル時ハ將校ハ乘馬セサルヲ例トス但シ騎兵、野戰砲兵及輜重兵隊ノ將校ハ觀閱者ニ隨從スル者ヲ除クノ外乘馬スルモノトス

第六條 工兵隊ノ小隊長ハ觀兵式ニ在リテハ徒歩スルモノトス

第七條 國將校ニシテ乘馬ノ者ハ天皇又ハ觀閱者ニ隨從又ハ隨從スルコトヲ得

第八條 輜重輪卒ハ觀兵式ニ列セシムルモノトス

第九條 行李、彈藥小隊、段列及縱列等ハ別命アルニ非サレハ觀兵式ニ列セサルヲ例トス

第十條 中隊以下ノ小部隊ニシテ大ナル部隊ト共ニ觀兵式ニ列スルトキハ之

分列式歩法
 第九條 分列式ニ於テハ山砲兵隊ハ常歩ヲ以テ其ノ他ハ速歩ヲ以テ之ヲ行フ
 第十條 分列中軍樂ヲ奏スル場合ニハ喇叭ヲ吹奏スルコトナシ
 第十一條 閱兵式ニ於ケル諸兵整列ノ順序左ノ如シ
 一、步兵隊
 二、工兵隊
 三、交通兵隊
 四、山砲兵隊
 五、野砲兵隊
 六、騎兵隊
 七、輜重兵隊
 教導隊ハ其ノ兵種ノ右翼、重砲兵隊中徒歩スルモノハ山砲兵隊ノ右翼、繁駕
 シタルモノハ野砲兵隊ノ右翼、騎砲兵隊ハ野砲兵隊ノ左翼ニ整列スルモノト
 第十二條 閱兵ノ隊形ハ各兵換典ニ依ル
 隊形ノ如何ニ論ナク諸兵指揮官ハ最右翼ノ指揮官ヨリ師團長ハ其ノ師團ノ最
 右翼ノ指揮官ヨリ各十六歩ニシテ第一線、各參謀長ハ其ノ長官ノ後方第二

團隊間隔
 天皇ノ臨
 御
 觀閱將官
 ノ臨場
 閱兵施行
 天皇ニ對
 スル動作
 第十三條 天皇式場ニ臨御アラムトスルキハ其ノ稍前ニ於テ諸兵指揮官ハ
 「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ吹奏セシム此ノ號音ニ依リ各團隊ハ第四條ノ動作ヲ爲
 ス
 第十四條 天皇臨御アリタルトキハ諸兵指揮官ハ前進シテ車駕ヲ奉迎シ軍樂隊及諸隊ノ
 喇叭手群ハ「君カ代」一回ヲ吹奏シ各隊ハ敬禮ヲ行フ
 第十五條 觀閱者タル將官臨場ノ際ニ於ケル各團隊ノ動作ハ前條ニ準ス但シ
 軍樂隊及喇叭手群ハ其ノ官職ニ應スル回数ニ從ヒ「海行カハ」ヲ吹奏スルモノ
 トス
 第十六條 閱兵ヲ施行セラルトキ諸兵指揮官ハ前進シテ天皇ヲ奉迎シ又ハ
 觀閱者ヲ迎ヘ刀ノ禮ヲ行ヒ當日出場ノ總人員（將校以下何名）ト唱フ以下同
 シヲ奏上又ハ報告シ天皇又ハ觀閱者ノ右方後ニ在リテ閱兵ノ奉導若ハ誘導
 ナ爲ス
 第十七條 天皇團隊ノ最右翼ニ到ラルトキハ軍樂隊ハ「君カ代」三回ヲ奏ス
 第十八條 旅團ノ右翼ニ到ラルトキハ師團長、旅團長ハ前進シテ天皇ヲ奉
 導、各幕僚ハ參謀長ノ後方第三線、其ノ他ノ司令部附將校、同相當官ハ幕僚
 ノ後方第四線ニ整列ス
 第十九條 軍樂隊ハ諸兵指揮官幕僚ノ後方適宜ノ所ニ整列ス
 第二十條 團隊ノ間隔ハ師團間ヲ六十四歩、旅團及異兵種間ヲ三十二歩トシ右方團隊ノ
 左翼ヨリ左方團隊ノ右翼迄ヲ測ルモノトス
 第二十一條 諸兵指揮官ハ前諸項ノ間隔ヲ適宜伸縮スルコトヲ得
 第二十二條 天皇式場ニ臨御アラムトスルキハ其ノ稍前ニ於テ諸兵指揮官ハ
 「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ吹奏セシム此ノ號音ニ依リ各團隊ハ第四條ノ動作ヲ爲
 ス

迎シ刀ノ禮ヲ行フ
 天皇各聯隊 獨立隊ヲ含ム以下同シノ右翼約二十歩ノ所ニ到ラレルトキハ各
 隊ハ敬禮ヲ行ヒ聯隊長(獨立隊長ヲ含ム以下同シ)ハ直ニ前進シテ天皇ヲ奉迎
 シ刀ノ禮ヲ行ヒ該隊ノ出場人員ヲ奏上ス
 天皇各隊ヨリ約十五歩過キ去ラレタルトキハ敬禮ヲ止ム但シ甲隊喇叭手群ノ
 吹奏ハ乙隊喇叭手群ノ吹奏ヲ始メタル時ニ止ムルモノトス
 團隊長ハ其ノ團隊ノ閱兵中諸兵指揮官ノ右側後ニ於テ天皇ニ扈從ス
 第十七條 觀閱者タル將官ニ對スル各團隊ノ動作ハ前條ニ準ス但シ軍隊ノ敬
 禮ハ「頭右(左)」ノ號令ニ從ヒ目迎目送ヲ爲シ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復
 シ軍樂隊及喇叭手群ハ其ノ官職ニ應スル回数ニ從ヒ「海行カハ」ヲ吹奏シ團隊
 長ノミ刀ノ禮ヲ行フモノトス
 第十八條 閱兵式ニ列シ分列ヲ爲ササル軍隊ハ諸兵指揮官ノ定ムル位置ニ整
 列スルモノトス

第三節 分列式
 第十九條 分列式ニ於ケル諸兵ノ順序ハ閱兵式ニ同シ
 第二十條 分列ノ隊形ハ各兵種典ニ依ル
 諸兵指揮官ハ先頭ノ團隊長ヨリ前方三十二歩、師團長ハ其ノ師團先頭ノ團隊
 長ヨリ前方二十四歩、各參謀長ハ其ノ長官ノ左方半馬身後方、其ノ他ノ幕僚
 ハ諸兵指揮官若ハ師團長ノ後方四歩ニ於テ一列ニ位置ス
 軍樂隊ハ諸兵指揮官ノ前方二十四歩ニ位置ス

團隊間ノ距離
 各團隊ノ距離ハ師團間ヲ八十歩、旅團間ヲ六十歩、異兵種間ヲ四十歩トス
 但シ乘馬隊速歩ヲ用ウルトキハ徒歩隊ヨリ約四百歩、旅團又ハ聯隊ト異兵種
 間トチ二百歩トシ駈歩ヲ用ウルトキハ之ヲ倍ス
 前項ノ距離ハ先行團隊ノ後尾ヨリ後續團隊ノ團隊長又ハ喇叭手群迄トス
 諸兵指揮官ハ前項ノ距離ヲ適宜伸縮スルコトヲ得
 第二十一條 閱兵終リタルトキハ諸兵指揮官ハ直ニ命令ヲ下シテ分列ノ隊形
 ナ作ラシム
 各隊ハ適宜先頭部隊ニ距離ヲ縮メ分列ノ隊形ヲ作ル
 時宜ニ依リ閱兵終ル毎ニ各隊ヲシテ先頭部隊ニ距離ヲ縮メ分列ノ隊形ヲ作ラ
 シムルコトヲ得
 第二十二條 諸兵指揮官ハ敬禮點ニ標兵(附圖參照)ヲ置カシメタル後分列行
 進ヲ命ス但シ命令ニ代ウルニ記號又ハ號音ヲ以テスルコトヲ得
 前進ノ命令ニ依リ軍樂隊又ハ先頭部隊ノ喇叭手群ハ前進ヲ起シ吹奏ヲ始メ各
 大隊長、中隊長ハ所定ノ距離ヲ得ルヲ待テ分列行進ノ號令ヲ下ス但シ行進中
 刀ヲ保持スル者ハ肩刀ヲ爲スモノトス
 第二十三條 諸兵指揮官ハ敬禮點ニ到リタルトキ刀ノ禮ヲ行ヒ敬禮點ヲ過キ
 タルトキハ直ニ肩刀ニ復シ駈歩ヲ以テ右方ニ進出シ天皇又ハ觀閱者ノ右側後
 ニ到リ刀ノ禮ヲ行ヒタル後肩刀ニ復シ分列式全ク終ル迄同所ニ位置ス
 第二十四條 軍樂隊又ハ喇叭手群ハ敬禮點第一標兵ヨリ約二十歩ノ所ニ到リ
 タルトキハ左側面行進ヲ爲シ適當ノ距離ニ於テ右ニ方向ヲ換ヘ天皇又ハ觀閱

者ニ正對シテ止リ連續吹奏ス
 喇叭吹奏 喇叭吹奏スル分列式ニ於テ後續隊ノ喇叭手群ハ先行隊ノ後尾敬禮點ヲ通過
 分列式 喇叭吹奏スル分列式ニ於テ後續隊ノ喇叭手群ノ調節ニ準シテ敬禮ヲ始ムヘシ此ノ場合ニ於
 軍樂吹奏 先行隊喇叭手群ハ直ニ吹奏ヲ止メ捷路ヲ經テ所屬隊ニ復歸スヘシ
 分列式 軍樂ヲ奏スル分列式並騎兵、野戰砲兵及輜重兵隊ノ速歩若ハ駈歩ヲ以テ行フ
 動作 分列式ニ於テハ喇叭手群ハ喇叭ヲ奏吹スルコトナク直行ス
 第二十五條 各團隊長ハ敬禮點ニ到リタルトキハ刀ノ禮ヲ行ヒ敬禮點ヲ過キ
 到リテ併列シ刀ノ禮ヲ行ヒタル後肩刀ニ復シ其ノ團體通過シ終リタルトキハ
 再ヒ其ノ場ニ於テ刀ノ禮ヲ爲シ駈歩ヲ以テ其ノ團體ニ復歸スヘシ
 天皇ニ對シテハ聯隊長ハ側方ニ進出シタル後天皇ノ左側後ニ移リ聖旨ヲ俟タ
 ス諸兵指揮官ノ定ムル所ニ從ヒ大隊長又ハ中隊長ノ職爵氏名ヲ奏上スルモ
 トス
 第二十六條 各團隊長ハ敬禮點ニ到リタルトキ將校ハ刀ノ禮ヲ行ヒ軍旗亦敬禮
 シ各大隊、中隊ハ其ノ隊長ノ下ス「頭右」ノ號令ニテ天皇ニ注目ス其ノ隊ノ後
 敬禮點ヲ過キタルトキハ軍旗並將校ハ敬禮ヲ止メ大隊、中隊ハ「直レ」ノ號
 令ニテ頭ヲ正面ニ復ス但シ嚮導タル小隊長若ハ下士ハ野戰砲兵ニ在リテハ右
 翼砲車ノ車長及馭者ヲ含ムハ終始正面ヲ直視スルモノトス
 觀閱者ニ對シ各隊ノ注目ハ前項ニ準ス但シ團隊長ノミ刀ノ禮ヲ行フ
 第二十七條 分列全ク終リタルトキハ諸兵指揮官ハ天皇又ハ觀閱者ノ前面ニ

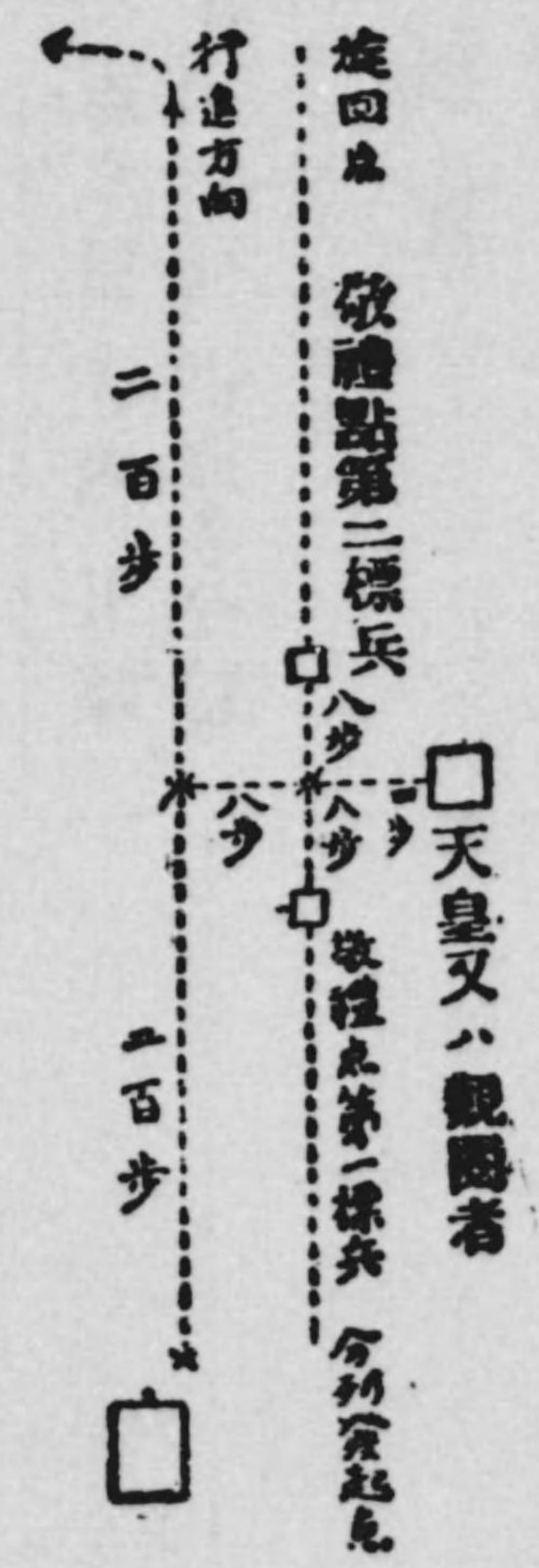
終了部隊
 動作 到リ刀ノ禮ヲ爲シ聖旨又ハ命令ヲ俟ツ
 第二十八條 分列終リタルトキハ各隊ハ逐次諸兵指揮官ノ定ムル位置ニ到リ
 徒歩隊ハ距離ヲ縮メタル縱隊ヲ作リテ左向ヲ爲シ野戰砲兵隊ハ間隔ヲ開キ各
 中隊左方ニ砲車縱隊ヲ作リ騎兵隊ハ左ニ集團橫隊ヲ作リ輜重兵隊ハ左ニ大隊
 縱隊ヲ作リ天皇ノ還御又ハ觀閱者ノ退場ニ對スル敬禮ノ準備ヲ爲ス但シ場合
 ニ依リ前記ノ隊形ヲ換ヘ若ハ分列終リタルトキハ各隊ハ直ニ退場スルコトア
 ルヘシ
 第二十九條 天皇還御ノトキハ各團隊長ハ臨御ノトキト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ
 但シ軍樂隊及喇叭手群ハ車駕場外ニ出ツル迄連續「君カ代」ヲ吹奏スヘシ
 觀閱者退場ノトキハ臨場ノトキト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ
 第三章 軍旗迎送式
 第三十條 軍旗奉迎ノ爲軍旗中隊ハ軍旗ヲ安置シタル家屋ノ前ニ到リ中隊縱
 隊ハ騎兵ニ在リテハ橫隊以下同シ「」ヲ作ルヘシ但シ喇叭手群ハ先頭小隊ノ右
 方ハ騎兵ニ在リテハ中隊ノ右方ニ整列スルモノトス
 旗手ハ拔刀又ハ著劍シタル嚮導ノ將校及護衛下士ト共ニ家屋内ニ入りテ軍旗
 ヲ迎フ
 第三十一條 軍旗中隊ハ著劍又ハ拔刀シテ軍旗ノ出ツルヲ待チ旗手ハ軍旗ヲ
 捧持シ嚮導ノ將校ハ其ノ左側前、護衛下士ハ旗手ノ兩側ニ從ヒ共ニ家屋ヲ出
 テ中隊ニ面シテ停止ス此ノ場合ニ於テ軍旗中隊ハ軍旗ニ對シテ敬禮ス其ノ方
 法ハ歩兵ニ在リテハ著劍捧銃騎兵ニ在リテハ拔刀若ハ立槍シ將校ハ刀ノ禮ヲ

聯隊集合
場
聯隊直接
整列
奉送
三

行ヒ曹長ハ捧刀シ喇叭「足曳」一回ヲ吹奏スルモノトス
前項敬禮ノ後旗手ハ誘導將校及護衛下士ト共ニ中隊ノ前方四歩ニ移リタル後
誘導ノ將校ハ中隊ノ定位ニ復シ喇叭手ハ軍旗ノ前方四歩ニ移リ中隊長ハ行進
ヲ起サシム此ノ場合ニ於テ喇叭手ハ喇叭ヲ吹奏シ中隊長ハ軍旗ノ直前ニ在リ
テ行進ス但シ道路狹少ナルトキハ側面縱隊〔騎兵ニ在リテハ途上縱隊〕ト爲ス
コトヲ得
第三十二條 軍旗中隊ニシテ聯隊集合場ニ到リタルトキハ聯隊ノ中央前約四
十歩ノ所ニ於テ之ニ面シテ中隊整列シ旗手ハ誘導ノ將校及護衛下士ト
共ニ中隊ノ前方約十歩ノ所ニ前進ス此ノ場合ニ於テ聯隊長ハ其ノ聯隊ヲシテ
軍旗ニ對シ前條ト同一ノ敬禮ヲ爲サシメ軍旗ノ前ニ到リ刀ノ禮ヲ行フ
敬禮終リタルトキ軍旗ハ聯隊ノ定位ニ就キ護衛下士ハ軍旗衛兵ト代リテ其ノ
所屬中隊ニ復歸ス
軍旗定位ニ就キタル後軍旗中隊ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク其ノ定位ニ就クハ
シ
第三十三條 聯隊直接ニ軍旗ヲ安置シタル家屋ノ前ニ整列スルトキハ軍旗中
隊ヲ設ケルコトナク旗手ニ於テ軍旗ヲ捧持シ誘導ノ將校及護衛下士ト共ニ家
屋ヲ出テ前條ニ規定シタル位置ニ到リ聯隊ハ軍旗ニ對シ敬禮ヲ爲スモノトス
第三十四條 軍旗ノ奉送ハ奉迎ノトキト反對ノ順序ニ從ヒ同一ノ方法ヲ以テ
之ヲ行フ
附則

操典ニ於テ觀兵式ノ隊形ヲ規定セラレサル兵種ニ在リテハ其ノ隊形ハ舊陸軍
禮式附錄ニ依ル

(附圖)



- 備考
- 一、本附圖ノ步數ハ適宜之ヲ伸縮スルコトヲ得
 - 二、標兵ハ徒歩兵又ハ乘馬兵ヲ用ウ但シ乘馬兵ヲ用キタルトキハ馬ノ頭
ヲ以テ標線トス
 - 三、分列發起點及旋回點ニハ標兵ヲ置クコトヲ得

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル陸軍刑法ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣 侯爵 西園寺公望
陸軍 大臣 子爵 寺内 正毅

陸軍刑法

一〇 刑法

第一編 總則	自第	第一條	至第	二十四條	頁	一
第二章 叛亂ノ罪	自第	第二十四條	至第	三十五條	頁	四
第三章 擅權ノ罪	自第	第三十四條	至第	三十九條	頁	六
第四章 辱職ノ罪	自第	三十九條	至第	四十六條	頁	七
第五章 抗命ノ罪	自第	四十六條	至第	五十七條	頁	〇
第六章 暴行脅迫ノ罪	自第	五十七條	至第	六十二條	頁	〇
第七章 侮辱ノ罪	自第	六十二條	至第	七十三條	頁	三
第八章 逃亡ノ罪	自第	七十三條	至第	七十八條	頁	三

第八章 軍用物損壞ノ罪	自第	七十五條	至第	七十九條	頁	四
第九章 掠奪ノ罪	自第	七十九條	至第	八十六條	頁	五
第十章 俘虜ニ關スル罪	自第	八十六條	至第	九十四條	頁	六
第十一章 違令ノ罪	自第	九十四條	至第	九十五條	頁	六

陸軍刑法 目次終

海軍軍人 第六條 陸軍ト共同作戰ニ從フ海軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

共同作戰 第七條 陸軍ト共同作戰ニ從フ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

陸軍軍人 第八條 陸軍軍人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ謂フ

- 一 陸軍ノ現役ニ在ル者但シ未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク
- 二 召集中ノ在郷軍人
- 三 召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人
- 四 前二號ニ記載シタル者ノ外陸軍ノ制服着用中又ハ現ニ服役上ノ義務履行中ノ在郷軍人
- 五 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

準陸軍軍人 第九條 左ニ記載シタル者ハ陸軍軍人ニ準ス

- 一 陸軍所屬ノ學生、生徒
- 二 陸軍軍屬
- 三 陸軍ノ勤務ニ服スル海軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

準陸軍將校 第十條 陸軍將校相當官、陸軍准士官、海軍將校、同相當官、海軍候補生及海軍准士官ハ陸軍將校ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者

亦同シ

準下士官 第十一條 陸軍士官ノ候補者ニシテ下士ノ階級ニ在リ士官ノ勤務ニ服セサル者ハ陸軍下士ニ準ス

準兵トハ 第十二條 陸軍ノ兵役ニ在リテ官等、等級ヲ有セサル者ハ兵卒ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ兵卒ノ階級ニ在ル者亦同シ

在郷軍人トハ 第十三條 在郷軍人ト稱スルハ陸軍ノ現役以外ノ役ニ在ル者、陸軍ノ現役ニ在リテ未タ入營セサル者、陸軍ノ歸休兵及退役陸軍將校、同相當官、准士官ヲ謂フ

軍屬トハ 第十四條 陸軍軍屬ト稱スルハ陸軍文官、同待遇者及宣誓シテ陸軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ但シ豫備又ハ退職ノ文官ハ此ノ限ニ在ラス

海軍軍人トハ 第十五條 海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法ニ於テ海軍軍人ト爲ス者ヲ謂フ

上官トハ 第十六條 上官ト稱スルハ命令關係アル陸軍軍人間ニ於テ命令權ヲ有スル者ヲ謂フ

司令官トハ 第十七條 司令官ト稱スルハ軍隊ノ司令ニ任スル陸軍軍人ヲ謂フ

哨兵トハ 第十八條 哨兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守地ニ在ル陸軍軍人ヲ謂フ

部隊トハ 第十九條 部隊ト稱スルハ陸軍ノ軍隊、官衙、學校、特務機關及戰時ニ於ケル陸軍ノ特設機關ヲ謂フ

軍中トハ 第二十條 軍中ト稱スルハ左ニ記載シタル部隊ニ在ル場合ヲ謂フ

命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ兵卒ハ下士勤務上等兵ヲ除クノ外總テ同等トス

一 戰時ノ體勢ヲ執リタル部隊但シ留守部隊、衛戍勤務ニ服スル後備又ハ國民諸隊、戰地以外ノ地ニ在ル輸送又ハ補給諸機關ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク

二 戰時ノ體勢ヲ執ラサルモ對敵狀態ニ在ル部隊

三 事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎮定ニ從事スル部隊

第二十一條 陸軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ陸軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ統殺ス

第二十二條 多衆共同ノ暴行ヲ鎮壓スル爲又ハ敵前ニ在ル部隊ノ急迫ニ臨ミ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十三條 前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪トナルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二十四條 本法及海軍刑法ニ於テ俱ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ陸軍軍人ニ準スル者ト雖海軍軍人ニ對シテハ海軍刑法ヲ適用ス

第二十五條 黨ヲ結ビ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑ニ處ス

第一編 叛亂ノ罪

軍用物劫掠ニ死刑ニ處スル行爲

第二十六條 反亂ヲ爲ス旨のヲ以テ黨ヲ結ビ兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十七條 左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一 軍隊又ハ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト

二 敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スルコト

三 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スルコト

四 敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スルコト

五 敵國ニ降ラシムル爲司令官ヲ強要スルコト

六 敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又ハ之ヲ逃走セシムルコト

第二十八條 敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一 要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルコト

二 水陸ノ通路、橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ軍隊、艦船ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト

三 司令官軍隊ヲ率キテ守地若ハ配置ノ地ニ就カス又ハ其ノ地ヲ離ルルコト

敵國ヲ利スル行爲ニ死刑

謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十九條 反亂ヲ爲ス旨のヲ以テ黨ヲ結ビ兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

前二條外ノ行爲
 犯亂者ヲ利スル行
 爲
 未遂
 豫備、陰謀
 自首、免罪
 同盟國
 外國ト開

第三十條 反亂者又ハ内亂者ヲ利スル爲前三條ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十一條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十二條 第二十五條乃至第三十條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十三條 第二十五條又ハ第二十六條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ事ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第三十四條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二章 權權ノ罪

第三十五條 司令官外國ニ對シテ故ナク戰闘ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス

四 隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ其ノ連絡集合ヲ妨害スル
 コト
 五 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト
 六 命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虛偽ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲ス
 コト
 七 造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

休戰媾和後ノ戰闘
 軍隊ノ進退
 命令トク
 職辱
 未遂
 降敵
 率兵降敵
 率兵逃避
 守地不就
 出兵不應

第三十六條 司令官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰闘ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十七條 司令官權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ軍隊ヲ進退シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十八條 命令ヲ待タズ故ナク戰闘ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三章 辱職ノ罪

第四十條 司令官其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ又ハ要塞ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處ス

第四十一條 司令官野戰ノ時ニ在リテ隊兵ヲ率キ敵ニ降リタルトキハ其ノ盡スヘキ所ヲ盡シタル場合ト雖六月以下ノ禁錮ニ處ス

第四十二條 司令官敵前ニ於テ其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ隊兵ヲ率キ逃避シタルトキハ死刑ニ處ス

第四十三條 司令官軍隊ヲ率キ故ナク守地若ハ配置ノ地ニ就カス又ハ其ノ地ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十四條 司令官出兵ヲ要求スル權アル官憲ヨリ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之

未遂罪

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
第五十六條 第四十條、第四十二條、第四十三條、第四十五條、第四十七條、
第四十九條、第五十一條及第五十三條乃至第五十五條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

抗命者

第五十七條 第四章 抗命ノ罪
上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處
斷ス

黨與抗命

一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處ス
二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ一年以上ノ禁錮ニ處ス
三 其ノ他ノ場合ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス
第五十八條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處
ス
二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其
ノ他ノ者ハ一年以上ノ禁錮ニ處ス
三 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他
ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
第五十九條 暴行ヲ爲スニ當リ上官ノ制止ニ從ハサル者ハ三年以下ノ禁錮ニ
處ス

暴行強迫者

第五十條 第五章 暴行強迫ノ罪
上官ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

黨與暴行

一 敵前ナルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
第六十一條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ首魁ハ無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他
ノ者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ
其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

兵器兇器

第六十二條 上官ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ
左ノ區別ニ從テ處斷ス

黨與同前

一 敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
第六十三條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若
ハ禁錮ニ處ス

哨兵ニ暴行

第六十四條 哨兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷
ス
一 敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二 其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シ哨兵ニ暴行 第六十五條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 一 敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 哨兵ニ兵 第六十六條 哨兵ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 一 敵前ナルトキハ無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 兇器暴行 第六十七條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 職務執行 第六十八條 上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 妨害 第六十九條 上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 同前兵器 第六十九條 上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

多衆暴行 第七十條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 一 首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 三 附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 職權濫用 第七十一條 職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 未遂罪 第七十二條 第六十條乃至第七十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 上官侮辱 第七十三條 上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 哨兵侮辱 第七十四條 哨兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 離職、不 第七十五條 故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 第七十條ノ罪
 役又ハ禁錮ニ處ス
 黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第七十條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 一 首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 三 附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第七十一條 職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第七十二條 第六十條乃至第七十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第七十三條 上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第七十四條 哨兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第七十五條 故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

就職
 一 敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 二 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シ前
 第七十六條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 二 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ首魁ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

奔敵
 第七十七條 敵ニ奔リタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス
 第七十八條 第七十五條第一號、第七十六條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

軍用物燒燬
 第七十九條 陸軍ノ工場、船舶、戰艦ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若ハ橋梁又ハ陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無

第八章 軍用物損壞ノ罪

野積品燒燬
 第八十條 露積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 一 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

前二條ノ物ヲ破裂
 第八十一條 火藥、汽罐其ノ他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

戰闘用交
 第八十二條 第七十九條ニ記載シタル物又ハ陸軍戰闘ノ用ニ供スル鐵道、電線若ハ水陸ノ通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

毀棄傷害
 第八十三條 兵器、彈藥、糧食、被服、馬匹其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

未遂罪
 第八十四條 第七十九條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

共同外國
 第八十五條 本章ノ規定ハ陸軍ト共同作戰ニ從テ外國陸海軍ノ軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

掠奪ノ罪
 第九章 掠奪ノ罪
 第八十六條 戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
 前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

16 [87-95] 罪ノ令違 罪ルス關ニ虜俘 罪

死傷者財	第八十七條	戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ褫奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
人物ヲ殺傷	第八十八條	前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
未遂罪	第八十九條	本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
看守俘虜ヲ逃走	第九十條	看守ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス
俘虜逃走	第九十一條	以上ノ有期懲役ニ處ス
未遂罪	第九十二條	第九十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
俘虜奪取	第九十三條	俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス
俘虜藏匿	第九十四條	前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
未遂罪	第九十五條	第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
哨兵ヲ欺	第九十六條	哨兵ヲ欺キテ哨所ヲ通過シ又ハ哨兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

17 [96-102] 罪ノ令違 罪

應召遅延	第九十六條	前項ノ外哨兵ニ對シ哨令ヲ犯シタル者亦前項ニ同シ
疾病身體毀傷	第九十七條	在郷軍人故ナク召集ノ期限ニ後レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
虛偽命令	第九十八條	一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス
通報飛語	第九十九條	二 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス
空包ニ彈丸瓦石	第一百條	三 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス
哨兵發砲	第一百一條	一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス
急呼不應	第一百二條	二 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

政治ノ上
書建白
違服從、
結黨

ク來會セサル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス、
第百三條 政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ
意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス
第百四條 服從ノ義務ニ違フヘキ事ヲ目的トシテ黨ヲ結ヒタルトキハ首魁ハ
六月以上五年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
明治十四年第六十九號布告陸軍刑法ハ之ヲ廢止ス

陸軍刑法終

朕陸軍懲罰令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

明治四十四年十月十三日

陸軍大臣 男爵 石本 新六

軍令陸第四號

陸軍懲罰令

改正
加除

大正八年四月十一日
大正八年八月十一日
大正八年八月二十九日
大正十年八月二十五日

一一

懲罰

陸軍懲罰令 次目

陸軍懲罰令 目次

第一章	第二章	第三章	第四章	雜則
總則	罰目	罰權	處罰	
自第一條	自第八條	自第十一條	自第十四條	自第十六條
至第七條	至第十條	至第十三條	至第十五條	至第十五條
一	三	五	九	二
頁				

陸軍懲罰令 目次終

1 [1-3] 則 總

陸軍懲罰令

第一章 總則

懲罰令適用

第一條 陸軍軍人ニシテ其ノ本分ニ背キ又ハ軍事ノ定則ニ違ヒ其ノ他軍紀ヲ害シ風紀ヲ紊リ其ノ犯行陸軍刑法ノ罪ニ該ラサルトキハ本令ニ依リ之ヲ懲罰ス

陸軍刑法以外ノ法令ノ刑ニ處セラレタル軍人ハ軍事ノ必要ニ依リ更ニ本令ニ依リ懲罰スルコトヲ得

適用者範

第二條 本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ之ヲ適用ス
一 現役ニ在ル者但シ待命、休職、停職中ノ者竝未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク

兵ヲ除ク

二 召集中ノ在郷軍人
召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人

三 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者
志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

四 陸軍所屬ノ學生及生徒但シ陸軍幼年學校生徒及各部依託學生同生徒ヲ除ク

五 陸軍所屬ノ學生及生徒但シ陸軍幼年學校生徒及各部依託學生同生徒ヲ除ク

六 第二號及第三號ニ記載シタル者ノ外現ニ服役上ノ義務履行中又ハ陸軍軍人ノ身分ヲ表彰シ得ヘキ服裝ヲ爲ス在郷軍人

第三條 本令ニ於テ在郷軍人ト稱スルハ待命、休職、停職中ノ者、現役以外ノ役ニ在ル者、現役ニ在リテ未タ入營セサル者、歸休兵及退役將校、同相當

在郷軍人トハ

將校、下士、官兵ニ準スヘキ者
應召遅刻
去職、除隊者等ノ處分ニノ
執行中ノ者ノ前條

官、准士官ヲ謂フ
第四條 將校相當官、准士官、見習士官〔見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官ヲ含ム〕及陸軍經理學校卒業後ノ三等主計候補者タル下士ハ將校ニ、士官候補生〔見習士官ヲ除ク〕主計候補生〔見習主計ヲ除ク〕一年志願兵及一年現役兵ハ各其ノ階級ニ應シ下士又ハ兵卒ニ準ス
陸軍ノ兵役又ハ兵籍ニ在リテ官等等級ヲ有セサル者ハ兵卒ニ準ス
第五條 故ナク徵集又ハ召集ノ期ニ遅レタル者ハ入營後ニ於テ之ヲ懲罰スルコトヲ得
第六條 犯行アル者懲罰處分ヲ經ス其ノ職務ヲ去リ除隊若ハ召集解除ト爲リ又ハ第二條第六號ニ該當セサルニ至リタルトキト雖仍之ヲ懲罰ス但シ兵役ヲ免シ又ハ兵籍ヲ除キタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ場合ニ於テハ第九條ノ罰目ヲ科ス
第七條 懲罰處分ノ言渡ヲ受ケタル者其ノ執行前又ハ執行中其ノ職務ヲ去リ又ハ除隊若ハ召集解除ト爲リタル場合ニ在リテハ其ノ懲罰ノ執行ヲ免除ス但シ歸休又ハ召集解除ト爲ルヘキ下士兵卒ニ在リテハ徵兵令、陸軍軍人服役令其ノ他法令ニ定ムル現役期限若ハ召集期日ノ範圍内ニ於テ必要ニ應シ其ノ懲罰期間歸休又ハ召集解除ヲ延期スルコトヲ得
前項ニ依リ歸休又ハ召集解除ヲ延期セムトスルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル上官ノ認可ヲ受クヘシ

3 [8-9] 目 罰

罰目	罰目
二ノ六	二ノ一
第九條 第二條第六號ノ者ニ科スヘキ罰目左ノ如シ	第八條 第二章 罰目 第二條第一號乃至第五號ノ者ニ科スヘキ罰目左ノ如シ
一 降等	一 重謹慎
二 重營倉	二 輕謹慎
三 輕營倉	三 下士
四 兵卒	免官
一 重謹慎	重謹慎
二 輕謹慎	輕謹慎
三 下士	免官
一 重謹慎	重謹慎
二 輕謹慎	輕謹慎
三 下士	免官
一 重謹慎	重謹慎
二 輕謹慎	輕謹慎
三 下士	免官
一 重謹慎	重謹慎
二 輕謹慎	輕謹慎
三 下士	免官
一 重謹慎	重謹慎
二 輕謹慎	輕謹慎
三 下士	免官

一 免官
 二 誹責
 三 降兵卒
 四 誹責等

第十條 重謹慎輕謹慎ハ各其ノ日數一日以上三十日以内トシ勤務ニ服セシメス居室(管内居住者ニ在リテハ懲罰ノ言渡ヲ爲シタル者ノ指定スル一室又ハ居室)ニ在リテ謹慎セシム但シ輕謹慎ニ處セラレタル者ハ聯隊長(下士ニ在リテハ中隊長)及之ト同等以上ノ罰權ヲ有スル上官之ニ演習教育等ノ爲特ニ出務ヲ命スルコトヲ得

重謹慎輕謹慎ニ處セラレタル者ハ罰期間重謹慎ニ在リテハ俸給十分五、輕謹慎ニ在リテハ俸給十分ニ減ス

第十一條 免官ハ其ノ官ヲ免シ一等卒ト爲シ降等ハ一階級ヲ下ス

第十二條 重營倉ハ其ノ日數一日以上三十日以内トシ營倉ニ鋼シ寢具ヲ貸與セス飯、湯及鹽ノミヲ給シ演習及教育ノ場合ヲ除ク外勤務ニ服スルコトヲ禁ス但シ三日ノ内一日ハ寢具ヲ貸與シ通常ノ糧食ヲ給スルモノトス

氣候風土疾病等ニ依リ必要アルトキハ聯隊長及之ト同等以上ノ罰權ヲ有スル上官竝獨立、分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長ハ重營倉ニ處セラレタル者ニ對シ特ニ寢具ノ使用ヲ許スコトヲ得

第十三條 輕營倉ハ其ノ日數一日以上三十日以内トシ營倉ニ鋼シ演習及教育

減俸
 換役
 禁足
 苦役
 誹責
 誹責停止
 罰目併科

ノ場合ヲ除ク外勤務ニ服スルコトヲ禁ス

第十四條 重營倉輕營倉ニ處セラレタル者ハ罰期間左ノ例ニ依リ俸給ヲ減ス

重營倉 管内居住者ニ在リテハ十分八、營外居住者ニ在リテハ十分五

輕營倉 管内居住者ニ在リテハ十分五、營外居住者ニ在リテハ十分二

第十五條 重營倉及輕營倉ハ勤務其ノ他ノ必要アルトキハ左ノ各號ニ依リ禁足又ハ苦役ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テモ重營倉又ハ輕營倉ニ對スル減俸ヲ行フモノトス

一 兵卒ノ階級ニ在ル學生、生徒ニ在リテハ重營倉一日ヲ禁足三日、輕營倉一日ヲ禁足二日ニ換算ス

二 兵卒ニ在リテハ重營倉一日ヲ苦役三日、輕營倉一日ヲ禁足二日ニ換算ス但シ營外居住者ニ在リテハ重營倉一日ヲ禁足三日ニ換算ス

第十六條 禁足ハ勤務、演習及教育ノ場合ヲ除ク外管内居住者ハ營外ニ、營外居住者ハ居室外ニ出ツルコトヲ禁ス

第十七條 苦役ハ勤務、演習及教育ノ場合ヲ除ク外營外ニ出ツルコトヲ禁シ管内ノ雜役ニ服セシムモノトス

第十八條 誹責ハ犯行ヲ糾シ將來ヲ戒飭スルモノトス

第十九條 誹責停止ハ一日以上一年以内トシ召集ノ場合ヲ除ク外陸軍制服ノ着用ヲ禁シ軍人ノ待遇ヲ停止スルモノトス

第二十條 同一ノ上官ハ一箇ノ犯行ニ對シ罰目ヲ併科スルコトヲ得ス

第三章 罰 權

6 [21-25] 權 罰

師團長
旅團長
聯隊長
大隊長、
分屯大尉
中隊長、
分屯中、
少尉
前四外、
各長官

第二十一條 師團長及之下同等以上ノ權アル軍隊ノ長ハ部下ニ對シ本令ニ規定スル一切ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス

第二十二條 旅團長聯隊長並獨立、分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長タル將官及佐官ハ部下ニ對シ本令ニ規定スル一切ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス但シ免官及降等ニ付テハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル上官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 大隊長及獨立、分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長タル大尉ハ部下ニ對シ左ノ罰權ヲ有ス

一 士官准士官ニ對シテ十日以内ノ重謹慎輕謹慎並誹責

二 下士ニ對シテ十日以内ノ重謹慎輕謹慎並誹責

三 兵卒ニ對シテ三十日以内ノ重營倉並輕營倉

第二十四條 中隊長及獨立、分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長タル中少尉ハ部下ニ對シ左ノ罰權ヲ有ス

一 士官准士官ニ對シテ誹責

二 下士ニ對シテ十日以内ノ重謹慎輕謹慎並誹責

三 兵卒ニ對シテ二十日以内ノ重營倉並輕營倉

第二十五條 前四條以外ノ各長官ハ左ノ各號ニ依リ部下ニ對シ罰權ヲ有ス

一 師團長ト同等以上ノ權アル將官ハ師團長ノ罰權

二 前號以外ノ將官同相當官ハ旅團長ノ罰權

三 大中佐同相當官ヲ以テ充ツヘキ職ニ在ル者並獨立ノ職ニ在ル少佐同相當官ハ聯隊長ノ罰權

7 [26-30] 權 罰

學校長其
他臨時部
下職務、職
事務上ノ罰
權者收容
機關ニ任
警備司令
官ニ對スル
在郷軍人
ニ對スル
罰權

第二十六條 學生、生徒及分遣中ノ下士兵卒等ニ對スル學校長、教導(生徒)隊長、同中隊長ノ罰權並臨時ノ部下ニ對スル上官ノ罰權ハ前五條ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 兼職者其ノ他部下ニ非サルモ事務上指揮ヲ受クヘキ者ノ長官ハ其ノ職務上ノ犯行ニ關シ前條ニ準シ罰權ヲ有ス

第二十八條 患者ヲ收容スル衛生機關ノ長官ハ下士以下ノ患者ニ對シ部下ニ對スルト同一ノ罰權ヲ有ス

第二十九條 衛戍司令官及要塞司令官其ノ他一地域ニ於ケル陸軍ノ秩序ヲ維持シ警備ニ任スル司令官ハ其ノ職權ニ基ク命令規則ニ對スル犯行者アルトキハ下級官等ノ軍人ニ對シ部下ニ對スルト同一ノ罰權ヲ有ス

第三十條 師團長及聯隊區司令官ハ其ノ所管内ニ現住スル在郷軍人ニシテ第二條第六號又ハ第六條ニ該當スル者ニ對シ第九條ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス但シ上長官以上ノ懲罰、士官准士官ノ禮遇停止ハ師團長之ヲ行ヒ聯隊區司令官ニ於テ下士兵卒ノ免官降等ヲ行ハムトスルトキハ師團長ノ認可ヲ受クヘシ

朝鮮、臺灣、樺太又ハ滿洲ニ現住スル在郷軍人ノ犯行ニ對シテハ各其ノ地域

四 前號ノ外少佐同相當官ヲ以テ充ツヘキ職ニ在ル者並獨立ノ職ニ在ル大尉同相當官ハ大隊長ノ罰權

五 前號ノ外大尉同相當官ヲ以テ充ツヘキ職ニ在ル者並中少尉同相當官ハ中隊長ノ罰權

上級職務
官等
相
各兵科將
校ノ權
直屬上官
外ノ長官
權限以上
報
處分ノ通

ニ從ヒ朝鮮軍司令官、臺灣軍司令官、關東軍司令官、第七師團長第九條ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス
第三十一條 上級職務心得勤ノ者及二官等ヲ通シテ充ツルコトヲ得ル職ニ在ル下級者ノ罰權ハ上級官等ノモノニ同シ
三官等以上ヲ通シテ充ツルコトヲ得ル職ニ在ル者ノ罰權ハ其ノ官等相當ノモノトス
第三十二條 將校相當官ノ部下ニ屬スル各兵科將校ノ犯行ハ該上官ノ具申ニ基キ其ノ長官タル將官又ハ各兵科將校之ヲ懲罰スルモノトス
第三十三條 直屬上官ニ非サル長官部下ノ犯行ヲ現認シタルトキハ必要ニ應ジ直ニ自己ノ權限ニ依リ之ヲ懲罰スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受罰者ノ直屬上官ニ通牒スヘシ
第三十四條 上官ニシテ自己ノ權限以上ノ處分ヲ要スル犯行者アルトキハ先ツ其ノ權限ニ依リ之ヲ懲罰シ意見ヲ附シテ自己ノ直屬上官ニ上申スヘシ
第三十五條 懲罰處分ヲ爲シタル各上官ハ其ノ直屬上官ニ報告シ受罰者第二十六條第二十八條又ハ第二十九條ニ該當スルトキハ仍受罰者ノ直屬上官ニ通牒スヘシ
受罰者在郷軍人ニシテ官公吏ナルトキハ之ヲ本八所屬ノ官公署長ニ通牒スヘシ
所管内ニ現住スル在郷軍人ニシテ他所管ニ屬スル者ナルトキハ前二項ノ外受罰者本籍地ノ陸軍關係諸官ニ通牒スヘシ

加罰
監督
罰目變更
通算
親補職
處分法

第三十六條 前二條ノ申報ヲ受ケタル上官及直屬上官ニ非サル長官ハ其ノ懲罰ニシテ輕キニ失スルモノト認メタルトキハ其ノ權限ニ依リ懲罰期間ヲ增加シ又ハ新ニ罰目ヲ附科スルコトヲ得但シ附科スヘキ罰目ハ第八條及第九條ノ區分ニ從ヒ前罰目ニ比シ重キモノヲ加フルモノトス
前項ノ場合ニ於テ第九條ノ罰目ヲ除クノ外各官ノ懲罰日數(下級上官ノ初罰日數ヲ含ム)ヲ通算シ三十日ヲ超過スルコトヲ得但シ重營倉若ハ輕營倉ニ代ヘ禁足又ハ苦役ヲ科シタルトキハ其ノ重營倉又ハ輕營倉ノ日數ヲ通算スルモノトス
第三十七條 上官ハ部下ノ懲罰處分及其ノ執行ヲ監督スヘシ其ノ懲罰處分ニシテ本令ノ規定ニ反スルモノアルトキハ其ノ罰目罰期ヲ變更シ若ハ懲罰處分ヲ取消スコトヲ得但シ故意過失等犯行ノ性質ニ對シ認定ヲ異ニシタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三十八條 前條ニ依リ罰目罰期ヲ變更シタルトキハ既ニ服罰シタル日數(禁足又ハ苦役ヲ執行シタル場合ニハ其ノ服罰日數ニ相當スル重營倉輕營倉ノ日數)ハ新罰目ノ日數ニ通算ス但シ重謹慎輕謹慎又ハ重營倉輕營倉ヲ通算スル場合ニハ重謹慎又ハ重營倉一日ヲ輕謹慎又ハ輕營倉二日ニ換算ス
第三十九條 親補職タル將官ニ對シテハ本令ヲ適用セス
第四十條 懲罰處分ヲ爲スニハ犯行ノ事實ヲ審查シ其ノ弊害ノ程度、犯行ノ情狀其ノ他受罰者ノ性行等ヲ斟酌シテ罰ヲ定ムヘシ但シ第二十七條ニ依リ懲

免官、降等、重懲管倉ノ區分言渡シ

第四十一條 罰處分ヲ爲ス場合ニ於テハ本屬長官ニ協議スルモノトス

第四十二條 免官降等ハ犯行重キ者又ハ屢々刑罰若ハ懲罰ノ處分ヲ受ケ仍改悛ノ狀ナキ者ニ科ス

第四十三條 重謹慎重管倉ハ故意ニ係ル犯行ニ科シ輕謹慎輕管倉ハ過失ニ係ル犯行ニ科スル例トス

第四十四條 懲罰處分ヲ爲スニハ口頭ヲ以テ詳ニ犯行ヲ示シ其ノ懲罰ヲ言渡スヘシ若シ犯行者ノ所在地遠隔スルトキハ言渡書ヲ作り之ヲ其ノ直屬上官ニ送付シ同官之ヲ讀開カスヘシ但シ直屬上官在ラサルトキハ本人ニ送付スルモノトス

前項懲罰ノ言渡ハ必要ニ應シ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ所屬部隊中ニ公示スルコトヲ得

第四十五條 懲罰ノ言渡ニハ受罰者ノ直屬上官若ハ受罰者ト同官等同等級以上ノ者ヲ陪列セシムル例トス

第四十六條 懲罰ハ言渡後直ニ之ヲ執行ス但シ勤務其ノ他ノ必要ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ停止ノ日數ハ懲罰期間ニ算入セス

前項猶豫又ハ停止ノ日數ハ懲罰期間ニ算入セス

第四十七條 戰時又ハ事變ノ場合ニハ懲罰ノ儘服務セシムルコトヲ得但シ其ノ服務日數ハ懲罰期間ニ之ヲ算入ス

第四十八條 重懲管倉ニ處セラレタル者ハ其ノ所屬部隊ノ管倉ニ鋼シ所屬部隊ニ管倉ナキトキハ附近ニ在ル部隊ノ管倉又ハ憲兵隊ノ留置所ニ鋼スル

陪列者

執行

管倉ノ鋼所

疾病

轉職

轉職轉隊後ノ發覺

復官等

執行濟

留置權

第四十八條 懲罰執行中疾病ニ罹リタルトキハ醫師ノ診斷ヲ受ケ水火等ノ災害ニ際シテハ防救遷徙スルコトヲ得

疾病中ノ者ハ診斷ノ結果ニ依リ懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止日數ハ公務ニ基因スル疾病ニ依ル場合ヲ除クノ外懲罰期間ニ算入セス

第四十九條 犯行アル者轉職又ハ轉隊スルトキハ懲罰ノ言渡ヲ爲シ之ヲ執行シタル後出發セシムルモノトス但シ第四十五條但書及第四十六條ノ場合ニ在リテハ懲罰ノ儘轉職又ハ轉隊セシムルコトヲ得

第五十條 轉職又ハ轉隊シタル者ノ舊所管ニ於ケル犯行發覺シタルトキハ新舊上官協議シ新上官之ヲ懲罰スヘシ

前項ノ規定ハ第六條及第二十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 免官降等ニ處セラレタル者懲罰執行中ノ者又ハ懲罰執行猶豫若ハ停止中ノ者ニシテ特ニ功績、勤勞アルトキ若ハ改悛ノ狀顯著ナルトキハ其ノ官等級ヲ復シ又ハ其ノ懲罰ノ執行ヲ減免スルコトヲ得但シ之ヲ復スルノ手續ハ官等級ニ在リテハ任官、等級ニ在リテハ進級ノ例ニ依ル

第五十二條 懲罰ノ執行ヲ終リタルトキハ第四十四條ニ定ムル者ヲ陪列セシメ受罰者ヲシテ將來ノ改悛ヲ誓言セシムヘシ

第五十三條 犯行ヲ審理スル場合ニ於テ犯行者ヲ管倉ニ留置シ又ハ其ノ勤務ヲ停止スルコトヲ要スルトキハ其ノ罰權ヲ有スル上官之ヲ命シ該上官在ラサ

期間計算

申報

俘虜

ルトキハ犯行者ヨリ上級ノ者假ニ之ヲ命スルコトヲ得
 第五十四條 懲罰期間ノ計算ニハ執行ノ初日ハ時間ニ拘ラス一日トシテ算入
 シ重營倉輕營倉ノ解網ハ其ノ期間滿了ノ翌日午前ニ於テ之ヲ行フ
 第五十五條 軍人ニシテ軍紀風紀ニ有害ナル行為アルトキ之ヲ現認シタル上
 級者ハ訓誡制止シ尙懲罰ニ處スルノ必要アリト認メタルトキハ本人所屬ノ上
 官ニ申報スヘシ
 第五十六條 俘虜ノ徵罰ハ免官降等ニ關スルモノヲ除クノ外其ノ官等等級及
 身分ニ應シ第八條ノ罰目ヲ準用ス
 附 則
 本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍懲罰令終

陸軍軍隊符號

符號

陸軍軍隊符號

目次

第一 通則	一頁
第二 野戰ノ部	三
一 各兵共通	三
二 步兵	五
三 騎兵	六
四 野戰砲兵	七

五 工兵	八
六 通信、照明	八
七 航空及防空	一〇
八 行李、輜重	一二
九 警戒及宿營	一三
十 作業	一五
十一 鐵道、船舶關係	一六
十二 兵站關係	一九
第三 攻守城ノ部	二一
第四 海軍ノ部	二五

陸軍軍隊符號

第一 通則

- 一、符號ハ著色スルヲ常トシ彼我兩軍ヲ標示スルニハ通常敵軍ニ赤色ヲ、我軍ニ藍色ヲ用フルモノトス
- 二、本書ノ符號ハ使用ノ目的ニ應シ適宜取捨シ使用者ノ意思ヲ簡明ニ表示スル如ク活用スヘキモノトス之カ爲符號ノ一部ヲ省略シ或ハ數種ヲ彼此接合シ要スレハ註記及臨時符號ニ依リ補足スルコトヲ得
- 三、近衛師團ニ在リテハ略字ノ頭ニ **G** ノ字ヲ、獨立ノ名稱ヲ冠スル部隊ニ在リテハ略字ノ後尾ニ **S** ノ一字ヲ附記ス後備隊ニ在リテハ略字

ノ下ニ一ヲ、國民軍隊ニ在リテハ二、附スルモノトス
 四、地區ノ境界、特定ノ地域ノ限界等ヲ標示スルニハ適宜ノ線號ヲ用ヒ
 符號ハ使用ノ目的ニ應シ適宜取捨シ使用者ノ意思ヲニハ適宜ノ矢↑
 ↑——ノ如キモノヲ用フ
 五、編制上ノ番號ヲ示スニハ聯隊内ノ大隊號ニ限リ羅馬數字ヲ用ヒ其ノ
 他ノ部隊ハ總テ亞刺比亞數字ヲ用フ例ヘハ 2i isp ノ如シ
 六、部隊數又ハ銃、砲、機數等ヲ表示スルニハ數字（要スレハ略字註記
 ヲ併記ス）ニ括弧ヲ附シ之ヲ示スモノトス例ヘハ

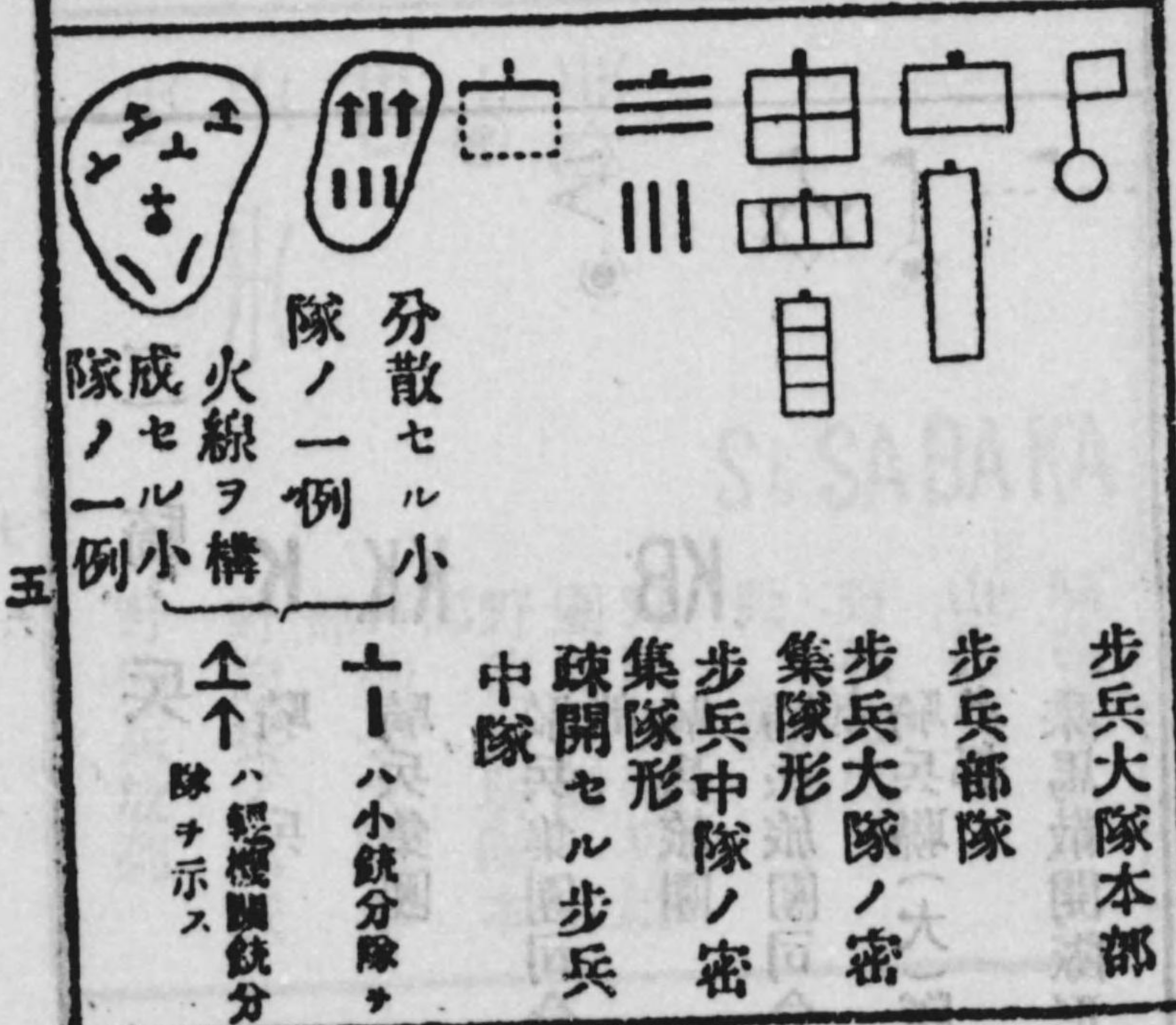
i (五大)
 K (四中)
 A (三大)
 P (一小)
 ↑ (2)
 出 (8)
 ※ (2)

七、上級部隊ノ番號ヲ併記スルヲ要スルトキハ斜線ヲ以テ相隔テ下級部
 隊ヲ上ニ上級部隊ヲ下ニ記スルモノトス例ヘハ步兵第二聯隊ノ第三大
 隊ハ $\frac{II}{2}i$ ノ如シ
 八、小隊、分隊ヲ示スニハ通常中隊ヲ單位トスル分數ヲ以テス例ヘハ騎
 兵第五聯隊第二中隊ノ一分隊ハ $\frac{1}{2}5K$ ノ如シ
 九、部隊ノ一部ヲ缺キタル部隊ヲ示スニハ負號ヲ附シ括弧内ニ之ヲ示ス
 例ヘハ步兵第二聯隊（第八、第十二中隊欠）ハ $2K(8,12)$ ノ如シ

第二 野戰ノ部

一 各兵共通

野戰ノ部 步兵

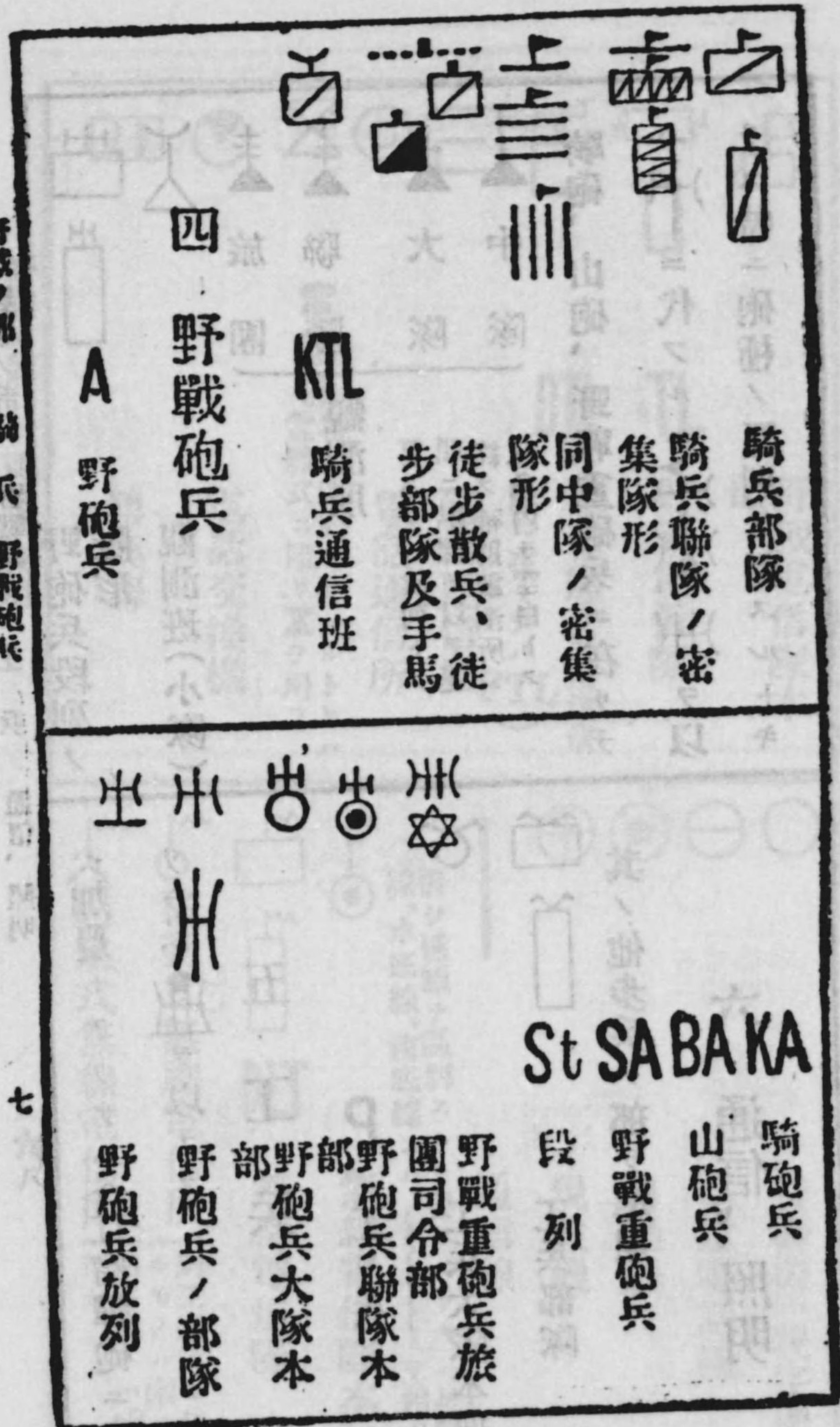


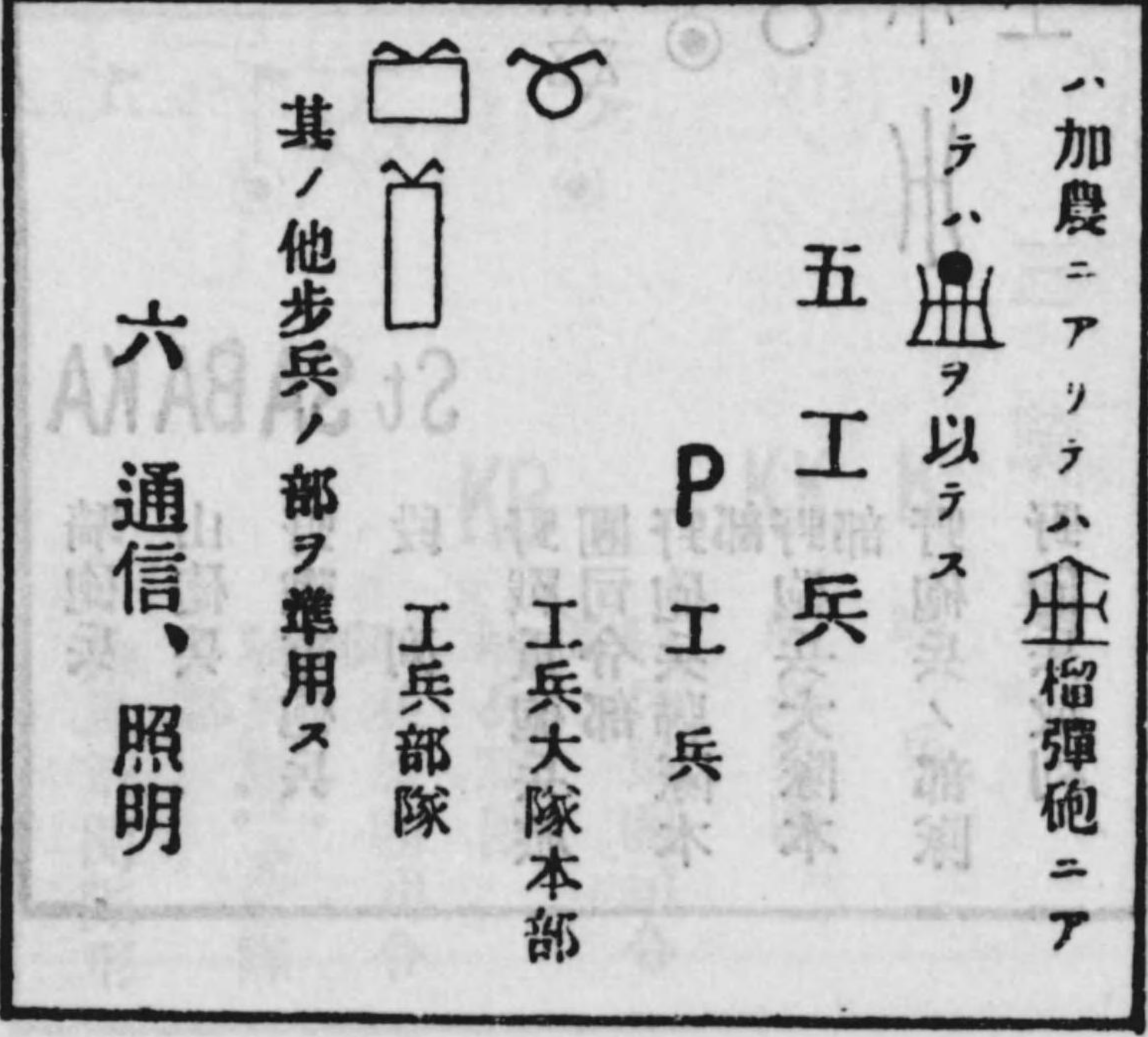
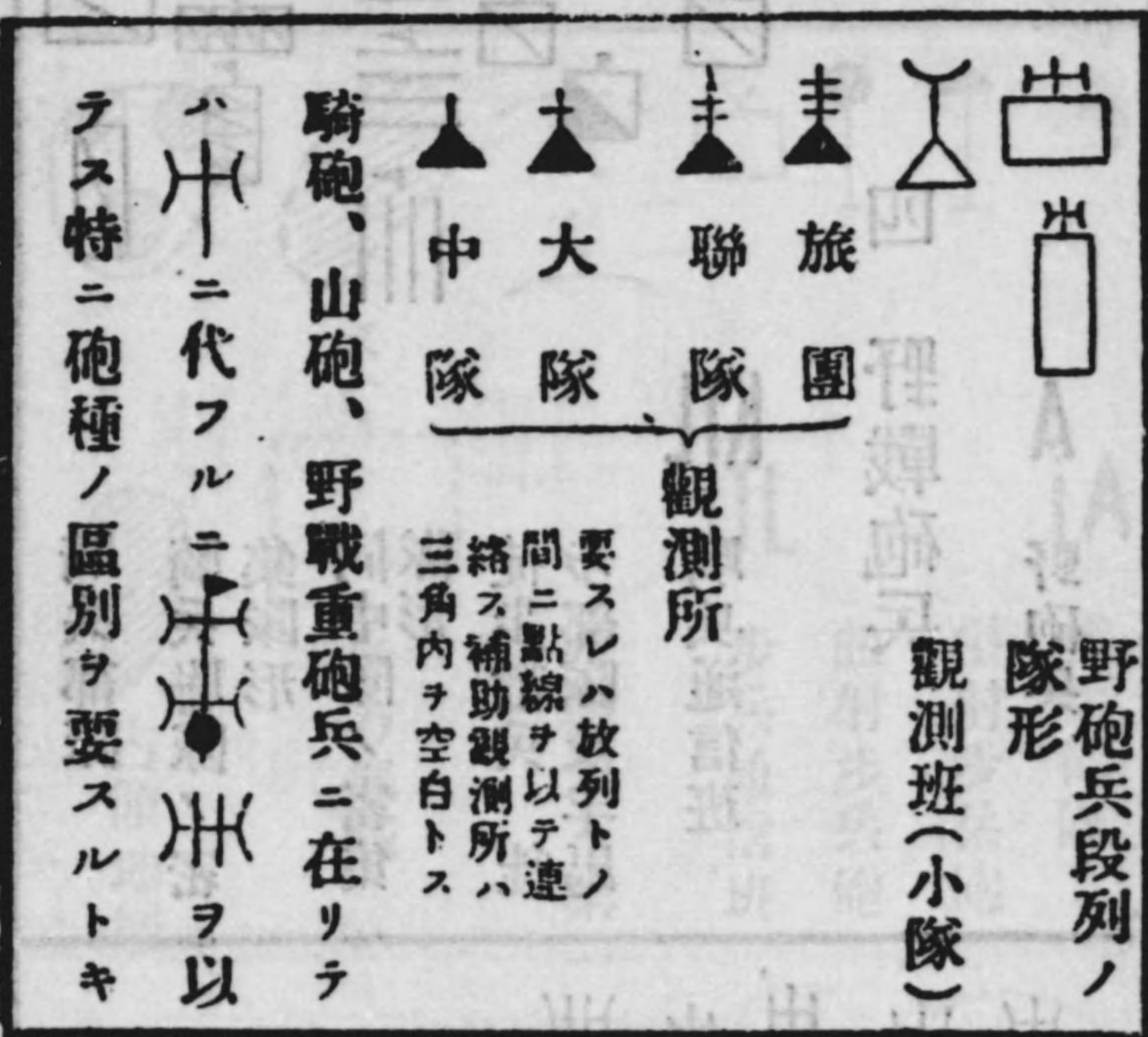
五

野戰ノ部 各兵共通

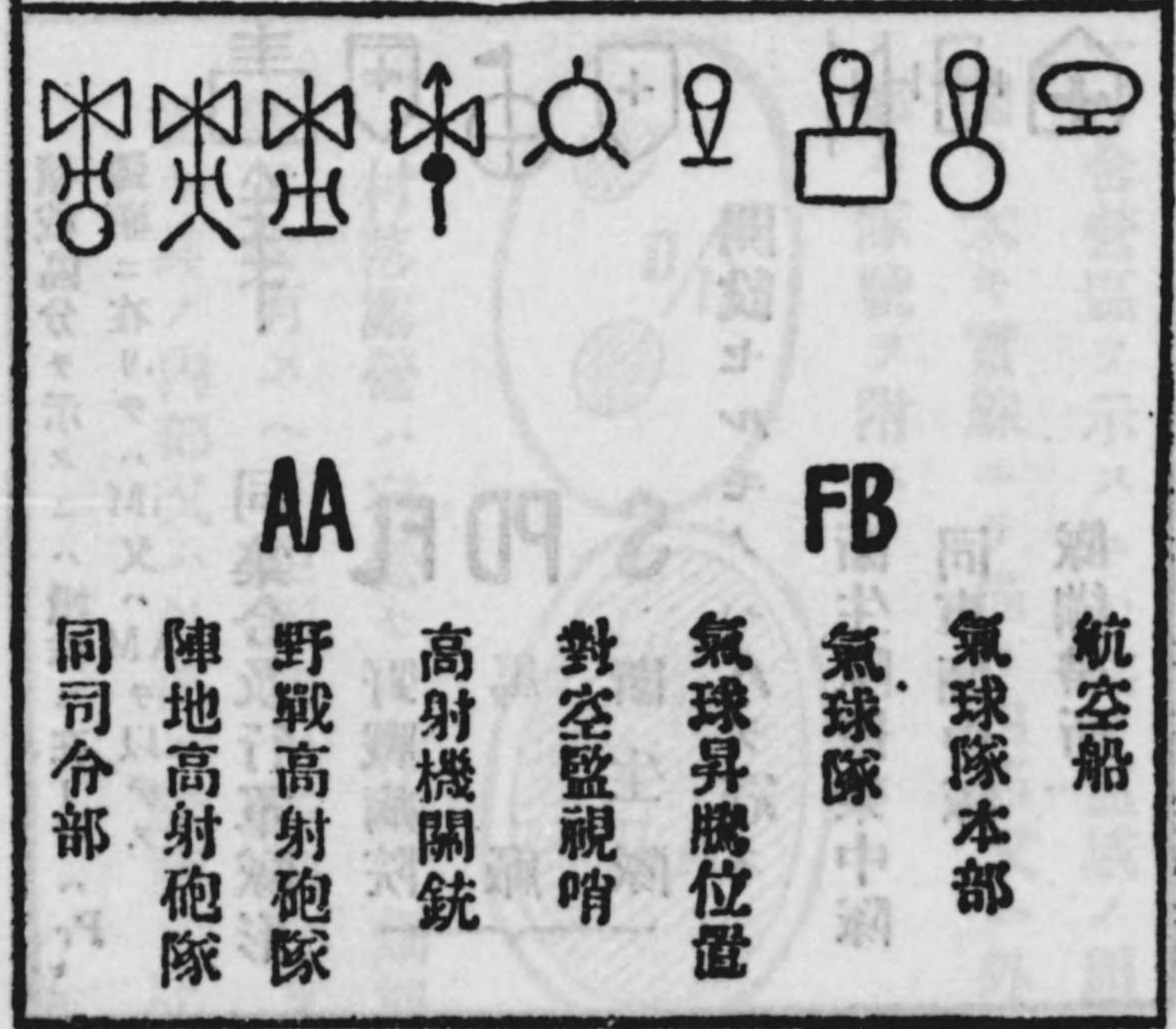
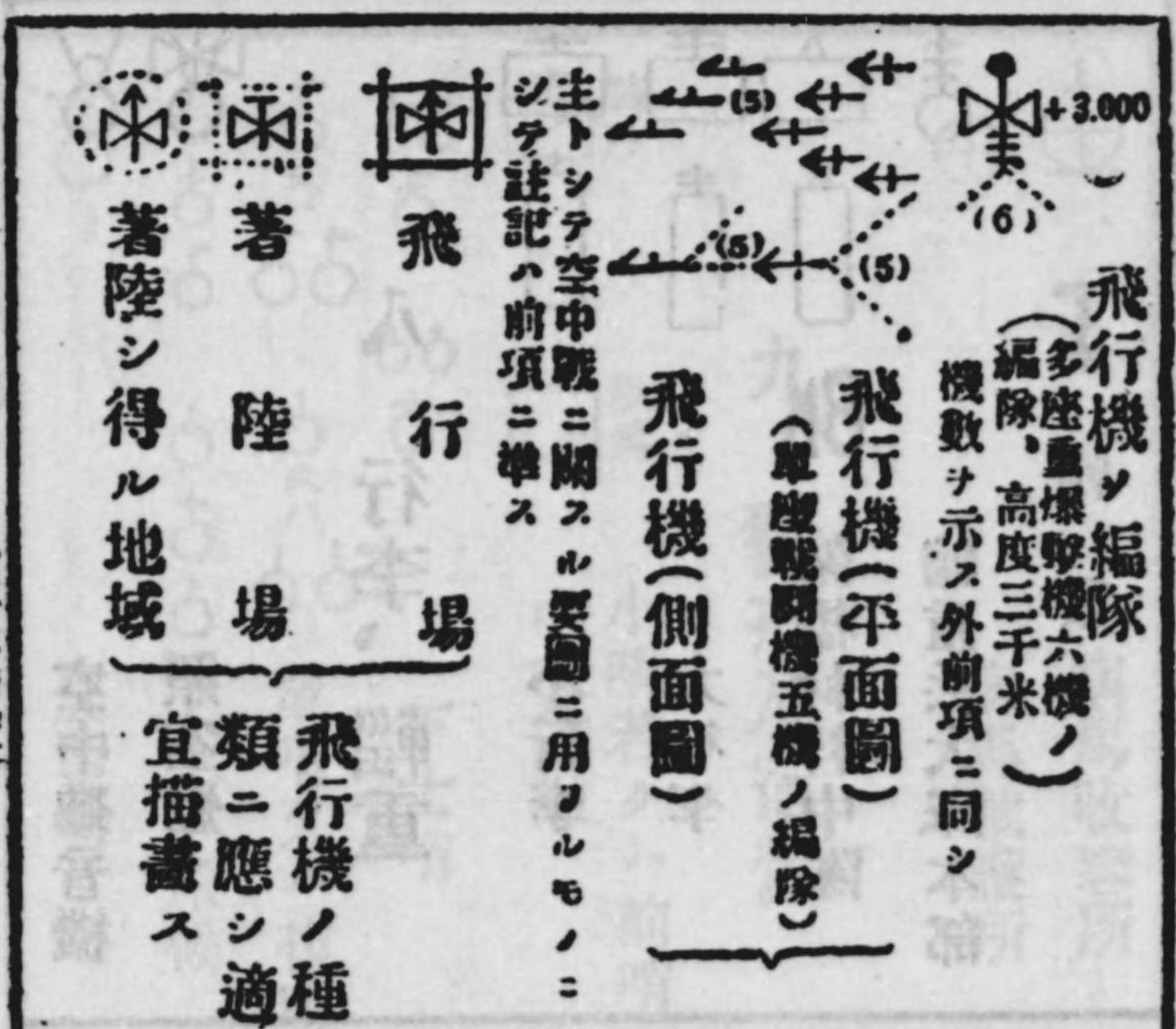


四



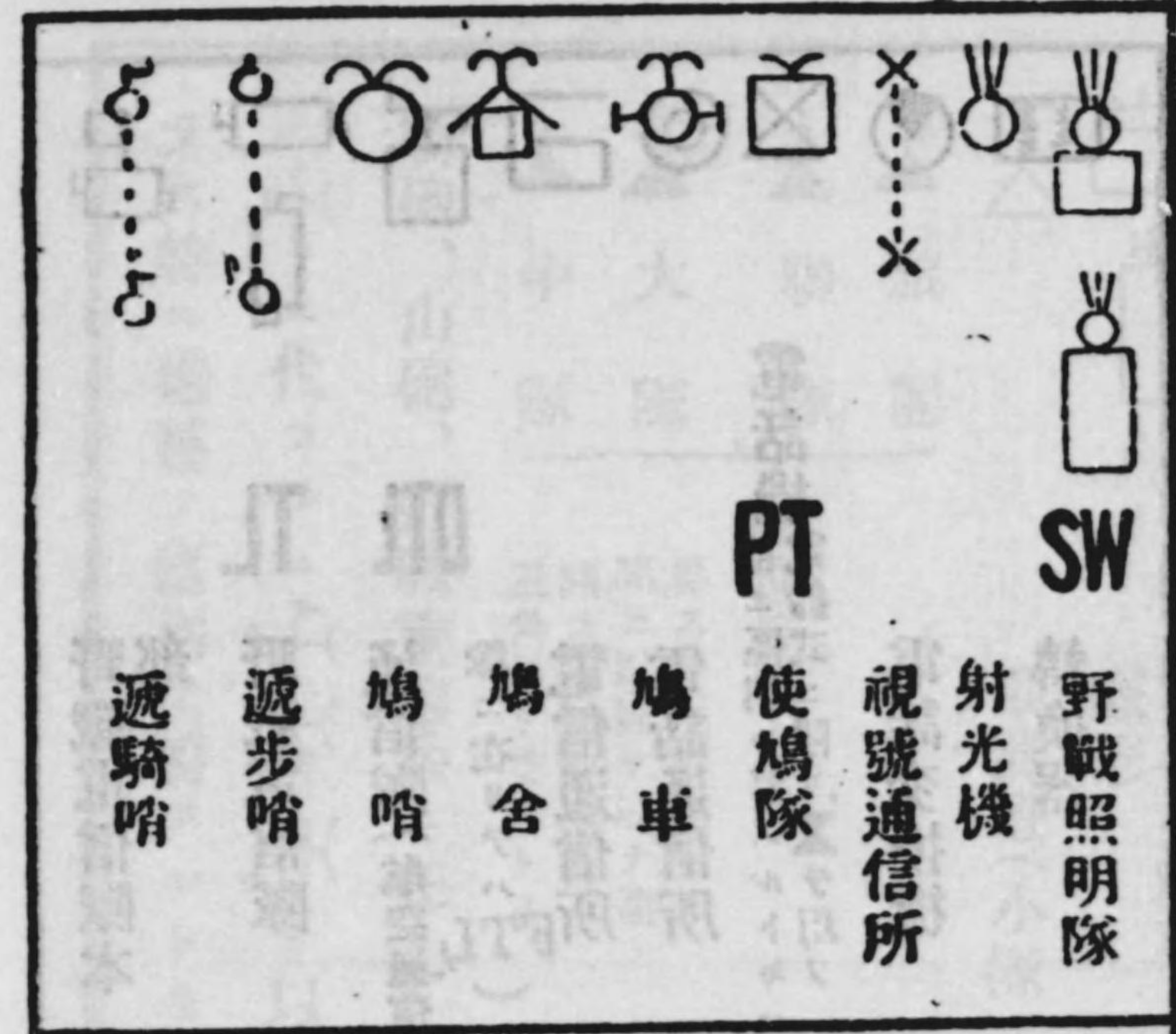


野戦ノ部 航空及防空



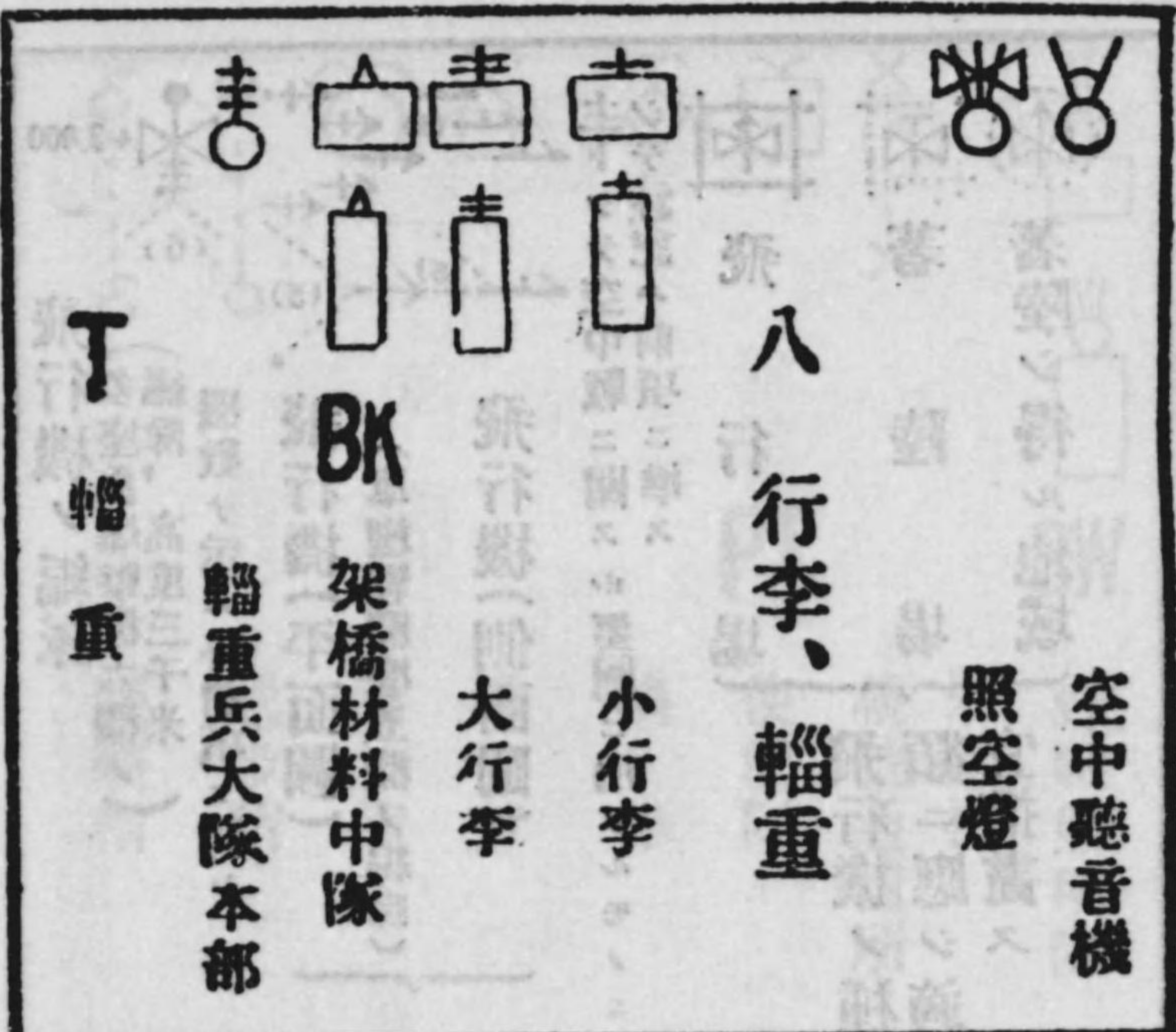
一一

野戦ノ部 通信、照明 航空及防空



一〇

行李部



一二



病馬收容所
病馬救護所

九 警戒及宿營



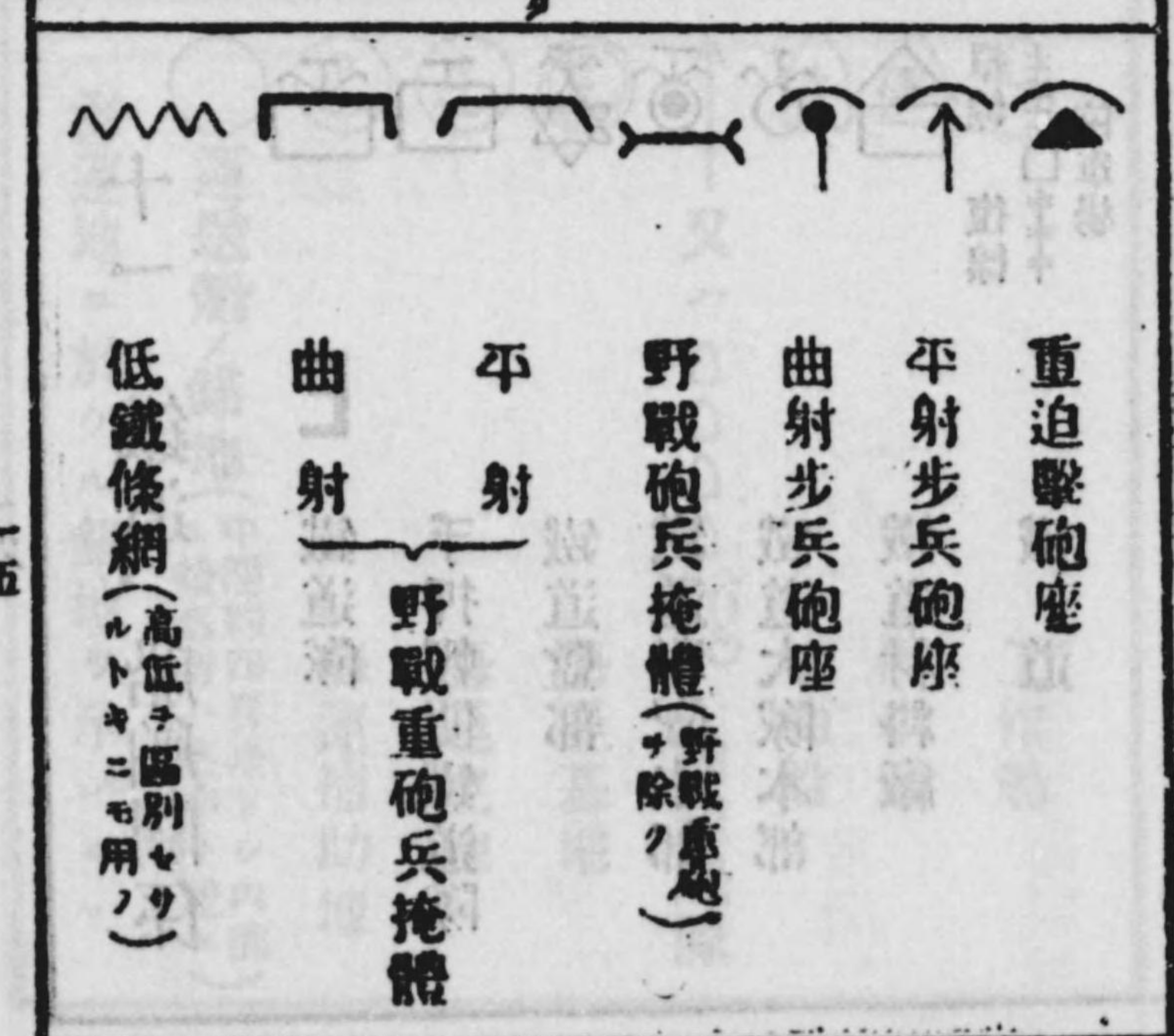
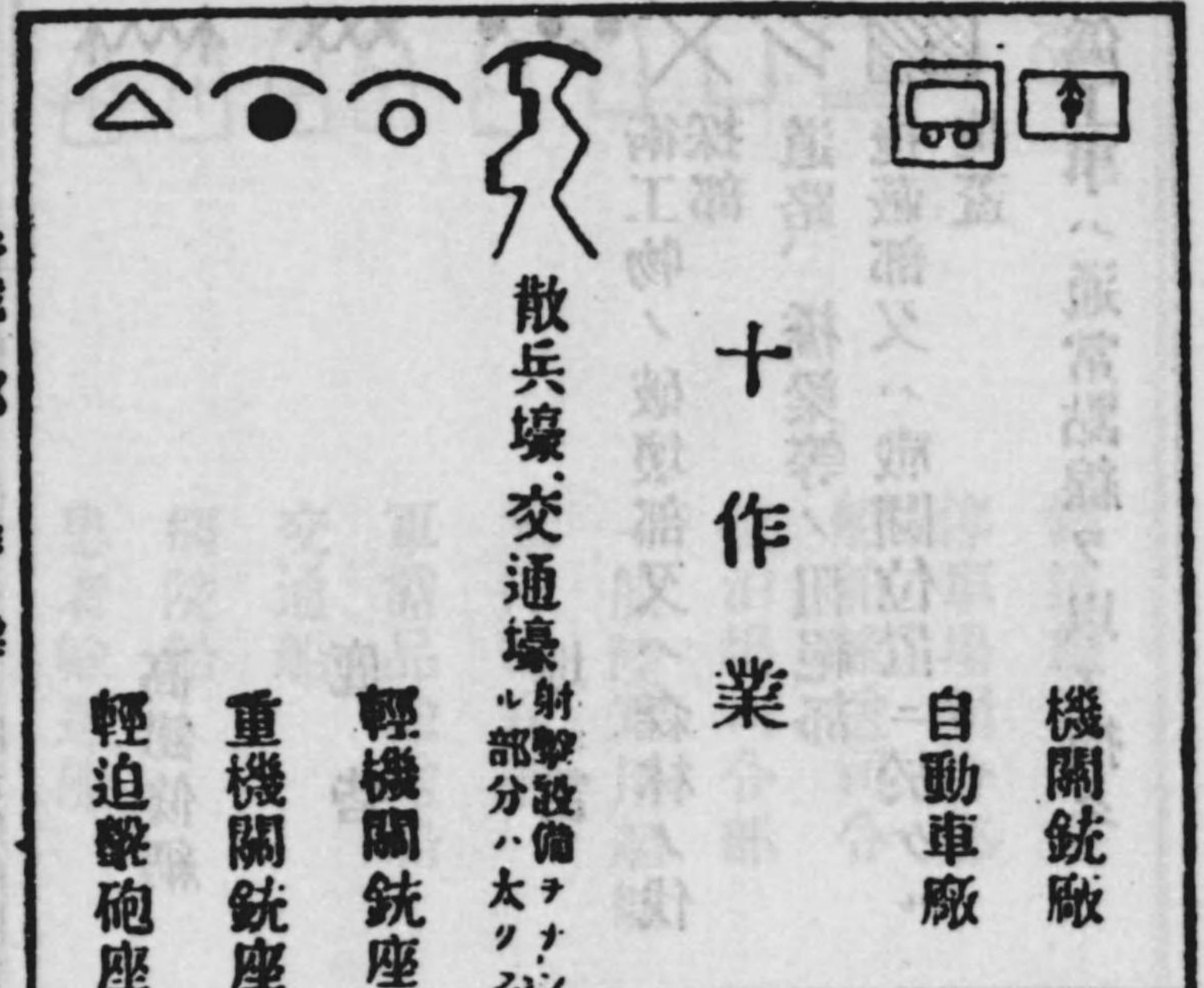
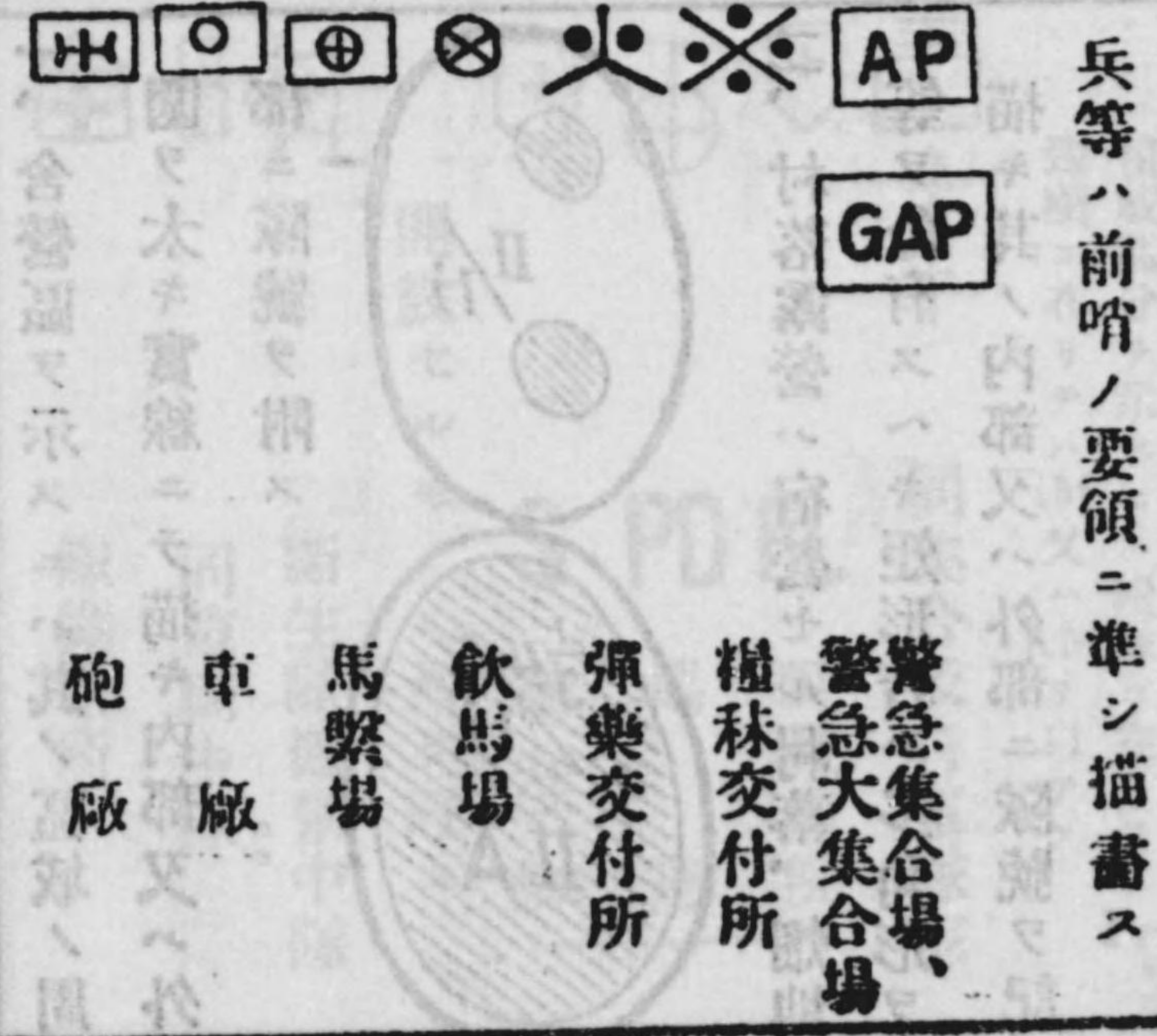
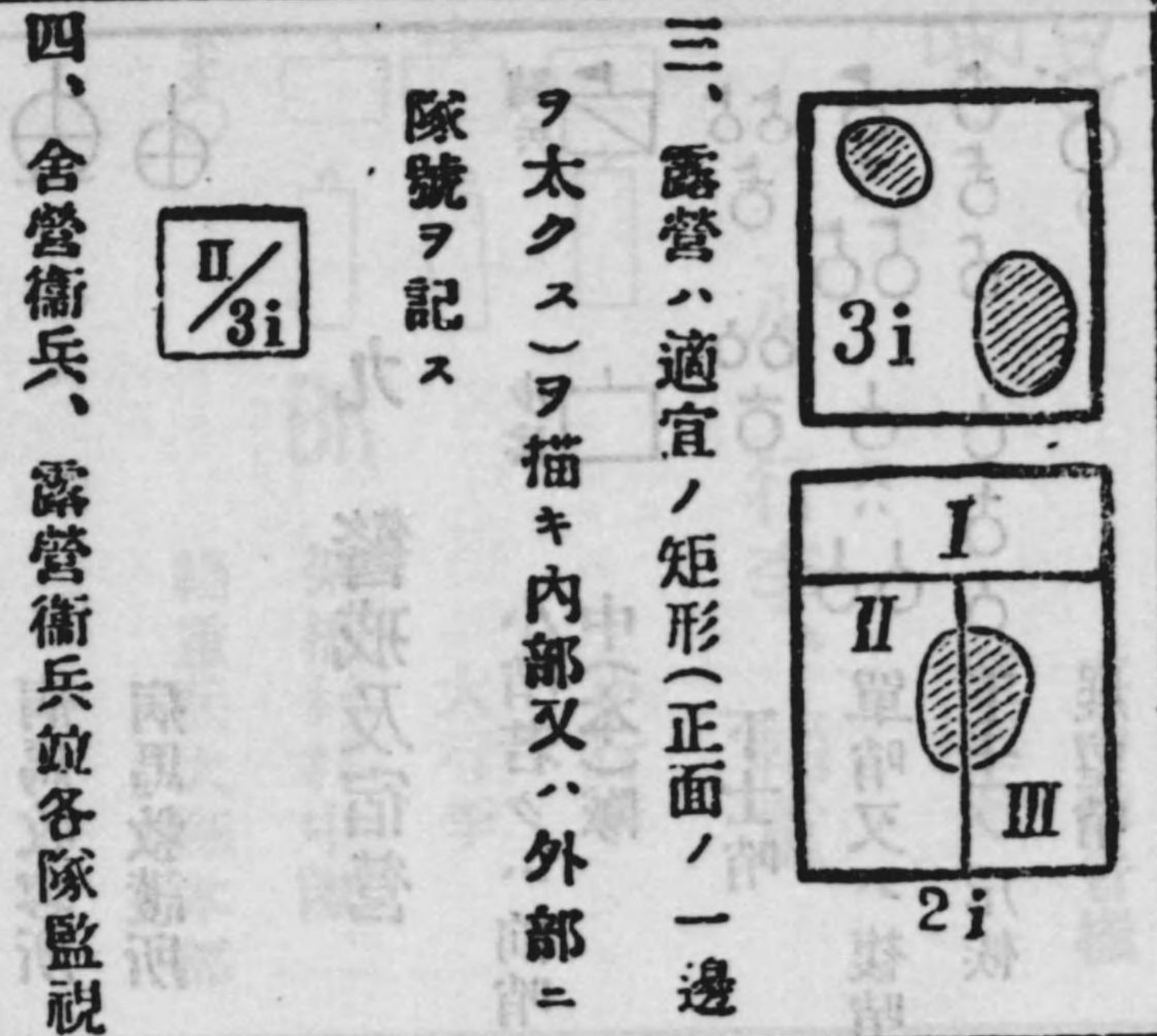
野戰ノ部 警戒及宿營

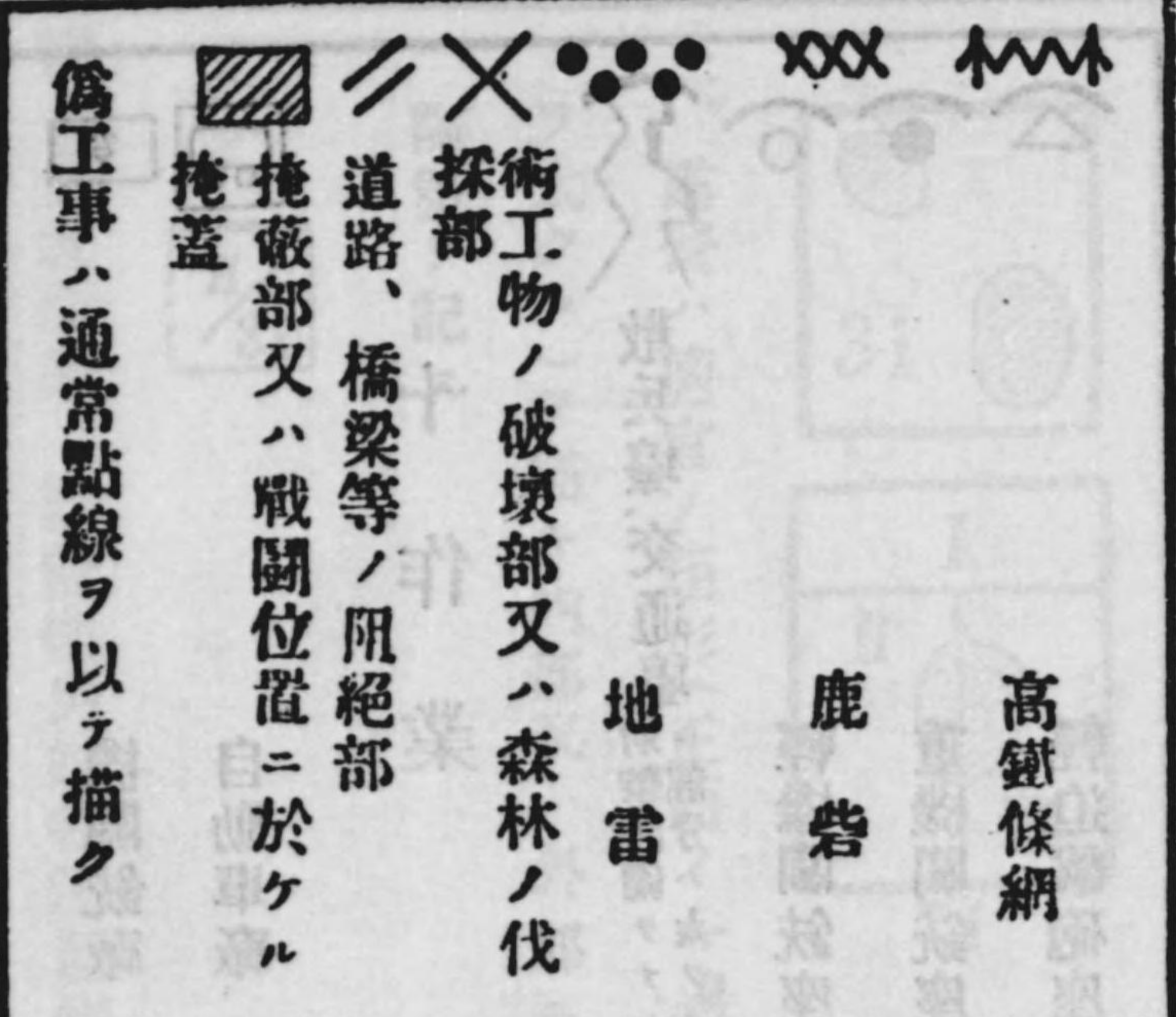
一、舍營區ヲ示スニハ其ノ區域ノ周
圍ヲ太キ實線ニテ描キ内部又ハ外
部ニ隊號ヲ附ス



二、村落露營ハ宿營セル村落、畑地
等ヲ含有スヘキ矩形若ハ多角形ヲ
描キ其ノ内部又ハ外部ニ隊號ヲ記

一三





偽工事ハ通常點線ヲ以テ描ク

掩蓋

掩蔽部又ハ戰鬪位置ニ於ケル

道路、橋梁等ノ阻絶部

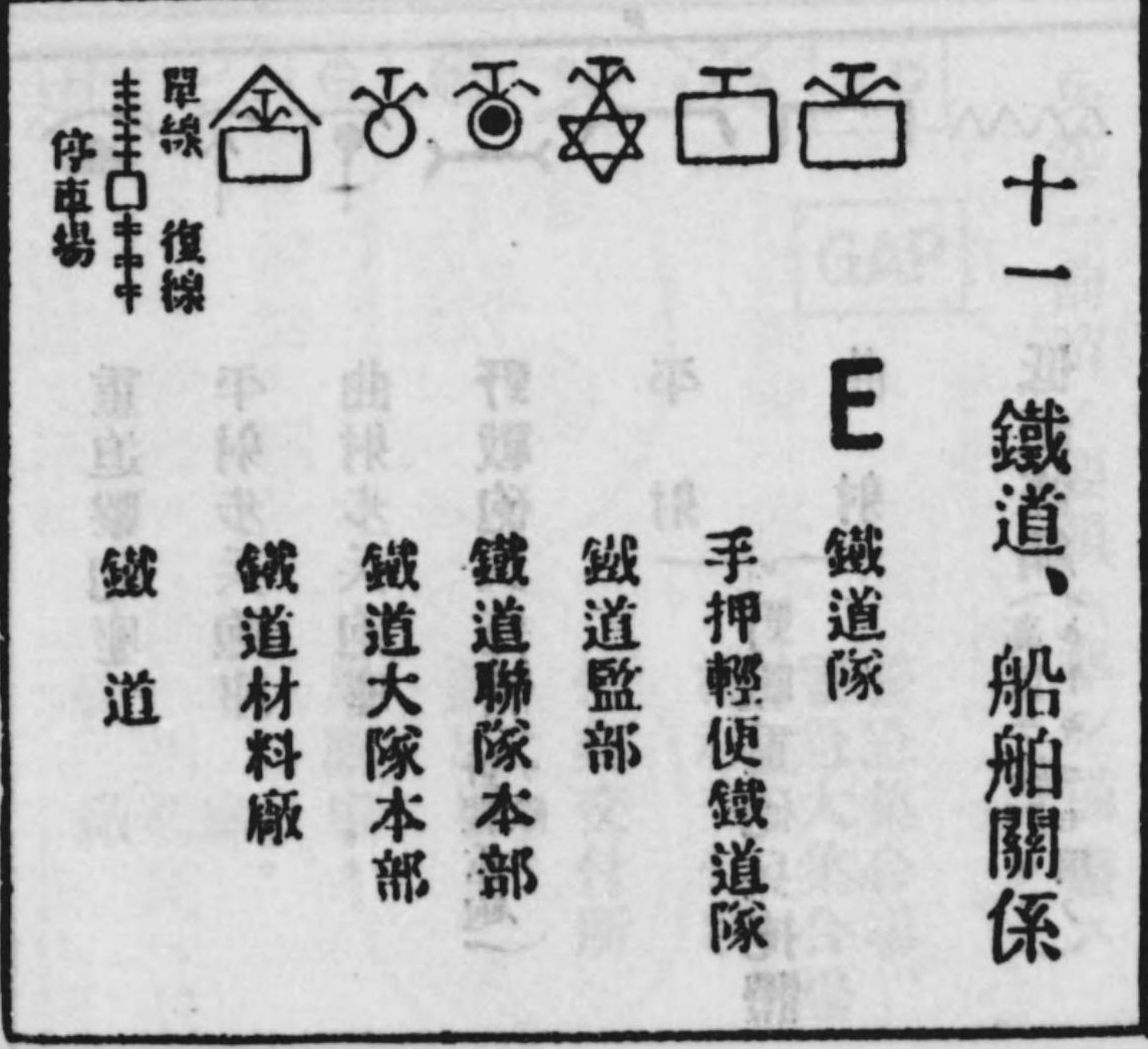
探部

術工物ノ破壊部又ハ森林ノ伐

地雷

鹿砦

高鐵條網



單線 復線 停車場

鐵道

鐵道材料廠

鐵道大隊本部

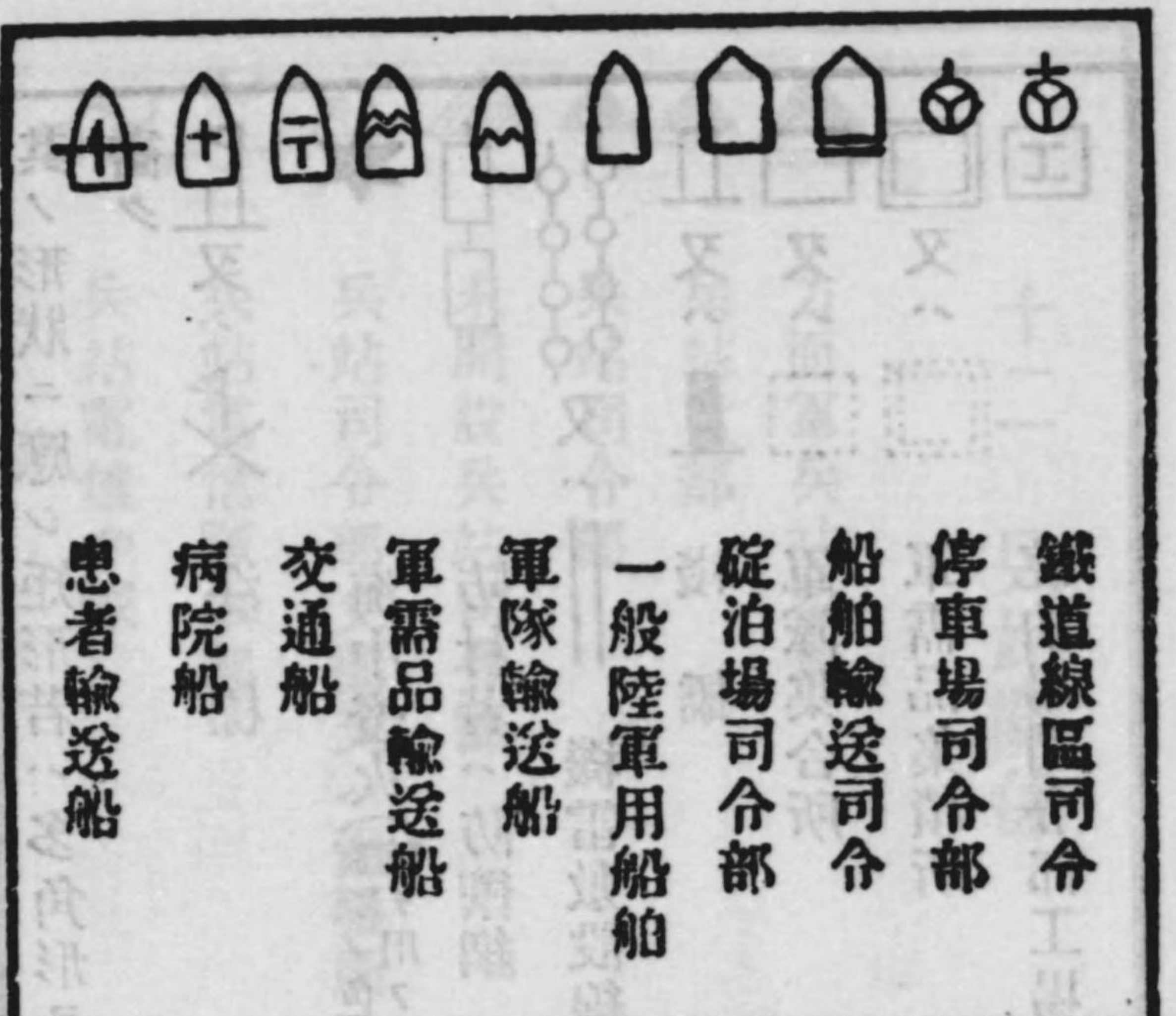
鐵道聯隊本部

鐵道監部

手押輕便鐵道隊

鐵道隊

十一 鐵道、船舶關係



患者輸送船

病院船

交通船

軍需品輸送船

軍隊輸送船

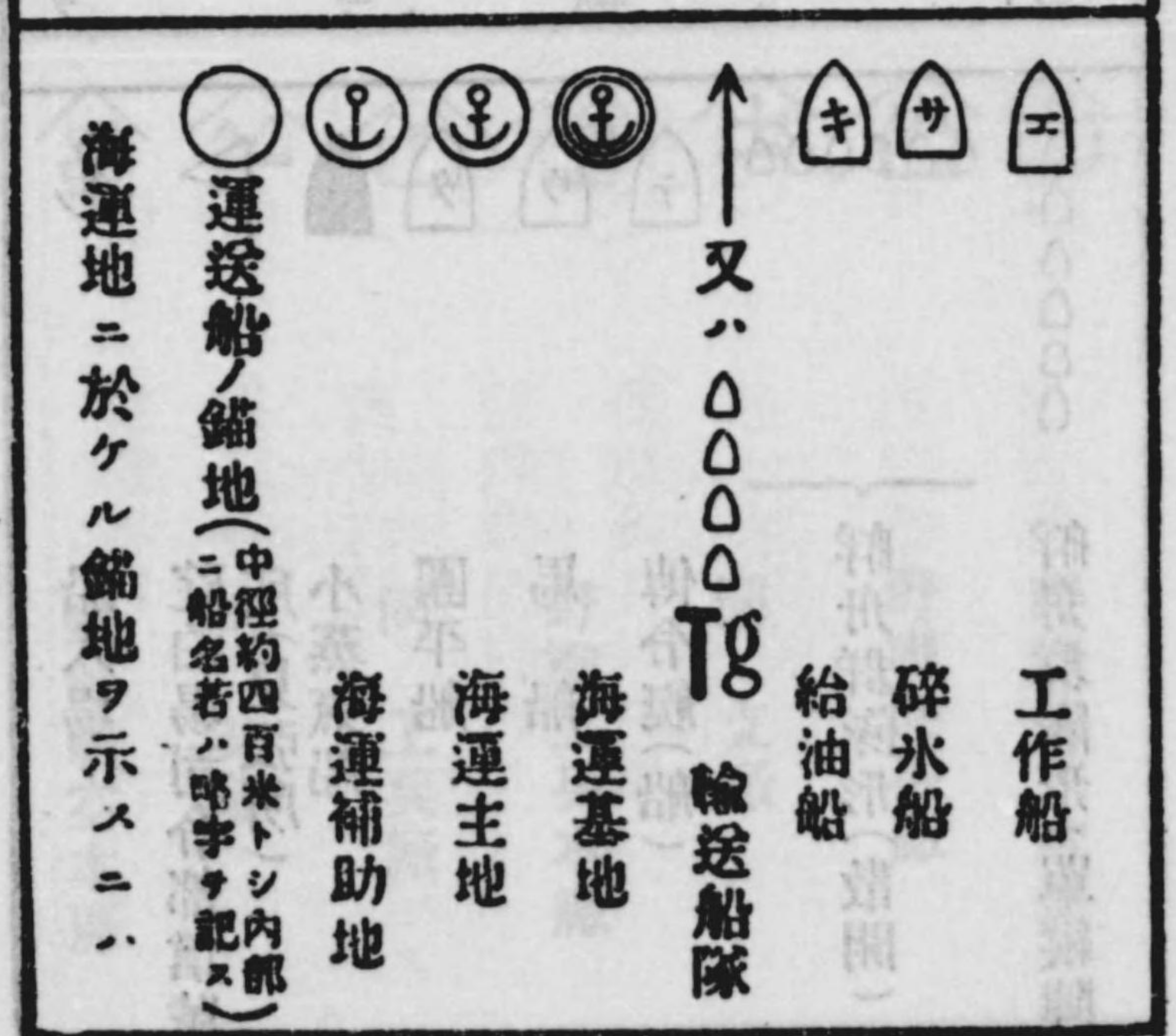
一般陸軍用船舶

碇泊場司令部

船舶輸送司令

停車場司令部

鐵道線區司令



海運地ニ於ケル錫地ヲ示スニハ

運送船ノ錫地(中徑約四百米トシ内部ニ船名若ハ噸字ヲ記ス)

海運補助地

海運主地

海運基地

輸送船隊

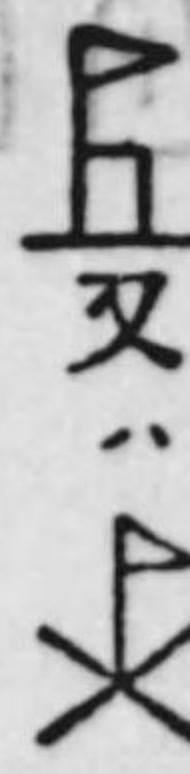
給油船

碎氷船

工作船

其ノ形狀ニ應シ矩形若ハ多角形ヲ

畫ク



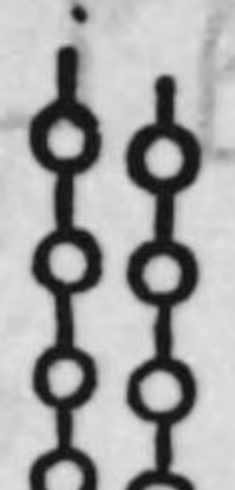
浮標



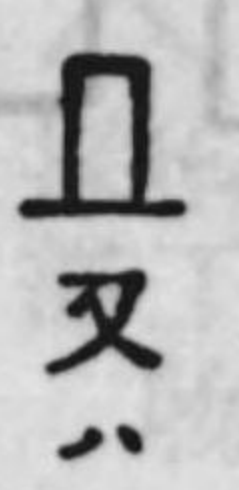
海中燈火(實際ノ色
號ヲ用フ)



防材若ハ防禦網



機雷敷設線



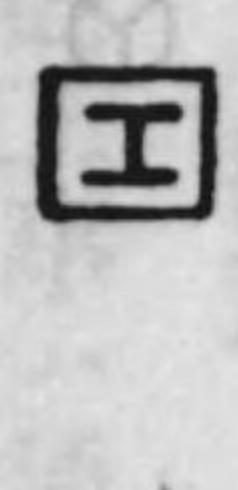
棧橋



軍隊集會所



軍需品集積所



碇泊場司令部工場

船入場

碇泊場司令部信號

所(見張所)

小蒸氣船

團平船

馬船

傳令艇(船)

解舟群隊形(散開)

解舟群隊形(單縱陣)

十一 兵站關係

方面軍兵站監部

兵站監部

兵站司令部

未開設兵站司令部

兵站司令部支部又ハ出張所

兵站電信隊本部

兵站電信中隊

野戰ノ部 兵站關係

野戰砲兵本廠

野戰砲兵廠

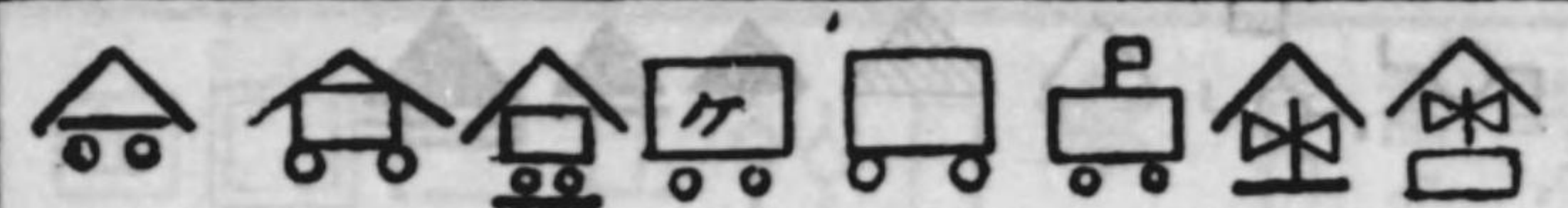
同 支廠

野戰工兵本廠

同 工兵廠

同 支廠

野戰航空本廠



野戦航空廠
同 支廠
自動車隊本部
自動車隊
牽引自動車隊
野戦自動車本廠
野戦自動車廠
同 支廠



豫備馬廠
兵站病馬廠
兵站病院
野戦豫備病院
野戦衛生材料廠
患者輸送部
患者療養所
患者集會所

開設セル
モノハ
冠ス



野戦本倉庫
野戦衣糧廠
同 支廠
野戦倉庫
兵站輜重兵中隊
地方車輛ニ依ル縦列
輸送監視隊
輸卒隊(陸上輸卒隊ノ場合ヲ示ス)



馬匹購買部
野戦建築部
野戦防疫部
物資蒐集部
野戦郵便局
同繼立所
野戦郵便直接交換局

第三 攻守城ノ部

攻守城ノ部

左ニ掲クルモノノ外ハ野戦ノ部ヲ
準用ス



NA FA

攻城重砲兵又ハ
要塞重砲兵

海軍砲

要塞司令部

攻城砲兵司令部又ハ砲兵司
令部

攻城工兵司令部

攻城(要塞)重砲兵聯隊本部又ハ地
區(獨立堡壘)砲兵司令部

二二



攻城(要塞)重砲兵大隊本部

要塞病院

同 分院

水中聽音機

永久堡壘

半永久堡壘

臨時堡壘

平射永久砲臺

形状ノ適宜ト
ス

攻守城ノ部



平射半永久砲臺

(曲射)永久砲臺

曲射半永久砲臺

砲 塔

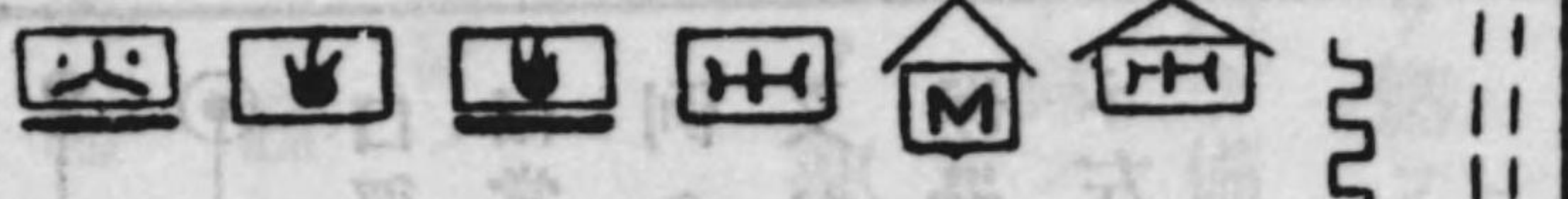
永久櫃舎

臨時櫃舎

兵 舎

廠舎又ハ幕營

三三



坑 道

攻 路

攻城砲兵廠

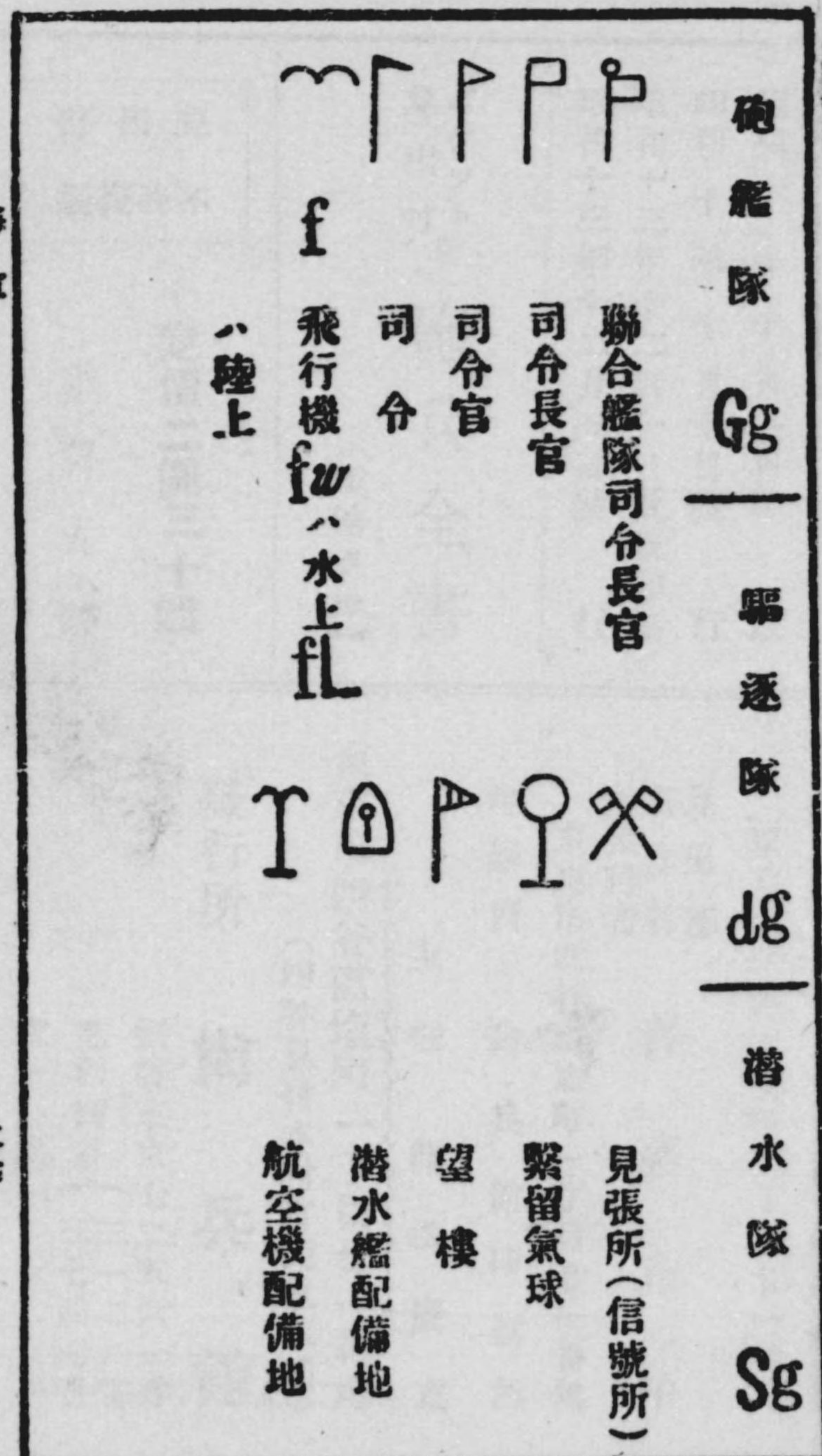
攻城工兵廠

砲車廠

彈丸廠又ハ彈丸本庫

彈 廠

火藥廠又ハ火藥本庫



昭和十年十月一日印刷
昭和十年十月十日發行
昭和十三年十二月一日改版印刷
昭和十三年十二月五日發行

ポケット見出付
砲兵全書

(電略タセ)

見出部
許不複製

定價二圓三十錢

送料九錢

東京市四谷區塩町一丁目廿一番地

見出部
著作者
兼發行者
齊藤市平

東京市四谷區塩町一丁目廿一番地

印刷所
尙兵館印刷所

主任 關根慶寬

東京市四谷區塩町一丁目廿一番地

(四谷見付本村町間電車通)

發行所
尙兵館

振替東京七二五六一番

電話四谷三一二一番

電略三七四七番

幹部候補生 検定問題 模範答案

(電略カト)

定價一圓八十錢
送料 十四錢

新改正幹部候補生制度通解附・内容一新常識時事大改正

★幹部候補生で將校か？ 一兵で終るか？

●検定試験の合格には實力？ 運？ 否!!

★準備の適切！方針の確立！實力の養成にあり!!

●本書は皆之を解決する鍵だ。本書を読む者と讀まぬ者では斷然實力に相違を生ず

★選べ！尙兵館！信用ある本書を！

●檢定準備に適した幹部候補生志願者の参考必携書は是非權威ある正確な本書をお薦めする！

●本書は全國軍隊より改正制度實施以來御下附を受け數萬題の實際問題より整理編輯したものである。

